



桔梗 (元興寺・森楽坊)

お盆の魂迎えの時
小さな芋藪火を焚いて
死者の霊を迎える
光の花の穂が風に揺れる
いかにも霊が舞っているようで
妖しげな花の時を感じさせる
何とも言えぬ美しさだった
笛の響き香水の香り
忘れるとなく忘れていた
日ごろの思い
親しく懐かしく悲しく
死者たちとの絆を思い出させる
風が光って
秋がなんの予告もなく
無造作にやってくる

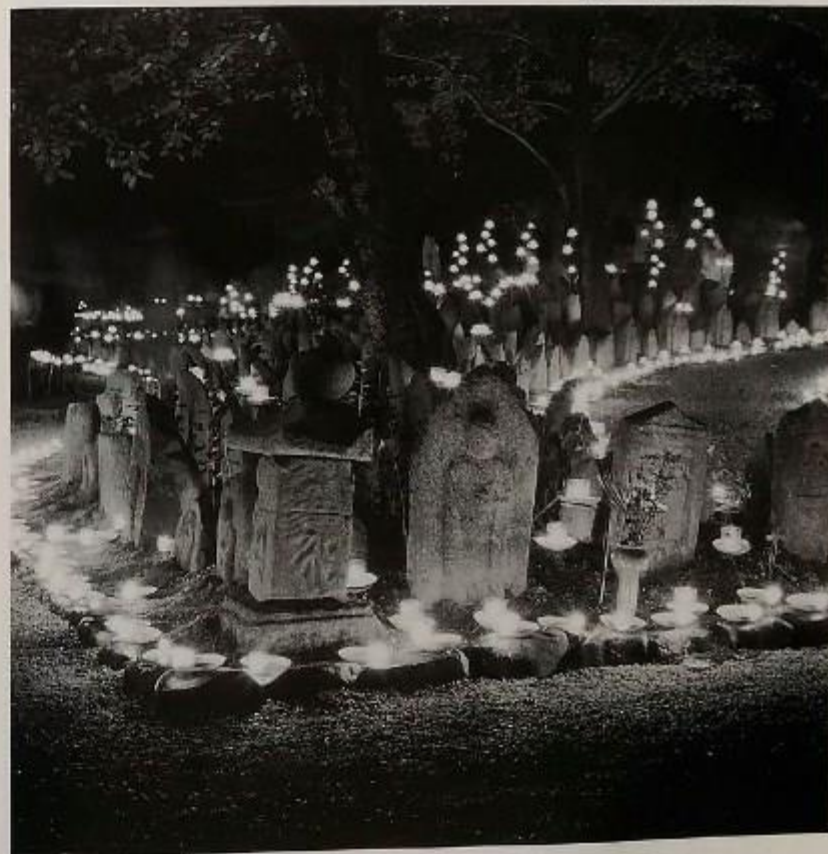


ハルシャギク (元興寺・極楽坊)

Photo essay

夏の花

題字 中田 蘭石
撮影 由井 収
文 松 永 恵 一



地藏会 (元興寺)

季節の



朝顔に奪取られて庭はけず (露香)



サギソウ



激流 (比良)

実景

盛夏

撮影 武市通治



アオサギ



サラシナショウマ (伊吹)



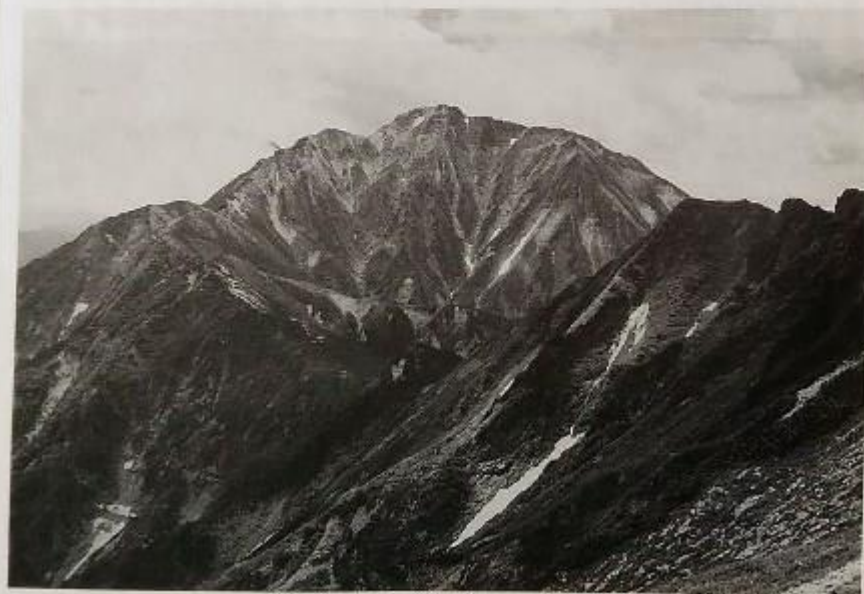
廣松岳より山頂山荘（北アルプス）

榎原 計國



花を求めてトレッキング（スイス）

中川 光郎



八方尾根から五竜岳（北アルプス）

榎原 計國



雄阿寒岳の噴煙（北海道）

美村 三枝

北の山の初夏の花 — 焼石岳・早池峰山にて —

奥田 英一郎



リュウキンカ (焼石岳にて)



ミズバショウ (焼石岳にて)



ハヤチネウスユキソウ (早池峰山にて)

●目次

表紙：松田敏男「ツメクサ咲く障利支天より仙丈ヶ岳を望む」(南アルプス)

●山岳プロフェール ●1969年、京都生まれ、京都府立医科大学。1987年より山岳活動。山岳部の部長を務めた。遠征行先は南アルプス山脈の他、英京・カナダ・ヨーロッパ、日本各地と野に散らばる。日本山岳会会員、一等山岳功労賞受賞者。

新刊作 別冊 関西の山
1997年7・8月 第47号

グラビア	夏の花	撮影	由井 収	文	松永 忠一
(口絵) 三浦弘幸 中川光輝 美村三枝 神原計國 奥田英一郎	武田信玄の戦略	西村 善行	4	2	
随想(山のエンゼル)	「遊き観音」新説について—藤田氏への疑問—	平良 一郎	11	10	
朝日連珠と月山(東北)	無忍根山と神威岳(北海道)	松本 遊雄	13	11	
雲野岳・雲部五郎岳・三保連珠岳(北アルプス)	日本雪山紀行(海外編)「上野お遊園」	吉田 信秀	24	20	
針ヶ岳・針ノ木岳・蓮華岳(北アルプス)	木曾駒ヶ岳より空木岳(中央アルプス)	藤原 計國	32	30	
七ヶ岳(北アルプス)	和歌の酒海軍の道(紀北)	菅原 守保	36	32	
運転 比良を歩く(荒川村から黒谷山・抱琴山)	北アルプスの諸岳と東北の山脈	木村 太郎	44	40	
1等三角点線(500以上) 548座完全の記録(第14回)	宇陀の山を歩く「山口から龍門岳登山」	坂井 久光	52	50	
●文学歴史探訪ハイイク⑧「御影から六甲最高峰へ」	山形 善一	中村 敏文	55	52	
●コース	山形 善一	松永 忠一	58	55	
① 灯明山(伊勢)	山形 善一	松永 忠一	62	60	
② 三王山・旗振山・交野山・園見山(北阿内)	山形 善一	松永 忠一	64	62	
③ 大づち山と一旗山(海)	山形 善一	松永 忠一	66	64	
④ 明ヶ田尾山(北阿内)	山形 善一	松永 忠一	68	66	
沿線ハイキングガイド	山形 善一	松永 忠一	73	71	
サービスチェン	山形 善一	松永 忠一	73	71	
さらさら巻	山形 善一	松永 忠一	73	71	
新ハイ關西山行打回と報告	山形 善一	松永 忠一	73	71	
バス時刻表(高山山岳)	山形 善一	松永 忠一	73	71	
編集後記・広巻要約	山形 善一	松永 忠一	73	71	

巻頭言

夏山は、足下に咲く可憐な花に慰められながら、顔に汗しての長丁場です。頭上には青い空、肩には緑の森が広がります。天上の楽園を求め、重荷のあるながら足先をふんばって一歩一歩、歩みは遅いものの、しっかりと登っていきます。これこそ夏山登山の爽快な喜びでもあります。

ところで、研究者によれば、色彩に対する好みは、国や地域によって異なるそうです。「白や緑」は民族・地域・性別に関係なくすべての人が好み、「白」は日本を始め、アジア地域の人にはたいそう好まれるそうですが、他の地域では人交薄といえます。

理由は、空や海の色は「青」で、大地を覆う森林は「緑」。いずれも人間や動植物の生命を育んできた大自然の色だからだそうです。たしかに、私たちがビルの間まれた「白」の世界からは遠く離れたところがあります。山に入ると心が癒されるのは何んと言っても「青や緑」の自然の色です。

今年も絶好のシーズンになりました。夏休みには白い裾を抜け出して、思いきり大自然の色に自分を染めてもらいませんか。

新ハイ關西山(代志) 村山 智俊



芋煮会と 飯盒炊さん

西村 善行

「芋煮会」とは、さわやかな秋の日に清流の川原で、里芋やキノコ類などを入れた芋煮鍋を囲む行事である。秋田や山形など東北地方では一般的に行われている。もともとは農家が収穫物を持ち寄り酒を酌み交わし一年の労をねぎらったのが始まりだと聞いている。

私が以前、お世話になったハイキングクラブのリーダーが秋田県出身なので、芋煮会を恒例のクラブ行事として、毎年、秋になるとどこかの渓流に大鍋を持ち込んで、必ず行っていた。

しかし、この方が故人となられて数年を経た今、このクラブでは芋煮会を積極的に実施することがなくなってしまった。

私はこの芋煮会が好きで、個人的に同好の仲間を集め、毎年続けている。芋煮鍋とは、里芋やキノコ類の他に、ニンジン・サヤエンドウ・コンニャク・肉などを煮込んだものであるが、ハイキングクラブでやっていたのは豚汁風に仕上げたものだった。鶏肉を使って筑前煮風のも悪くない。材料についても特に決まりがあるわけでもないで、それぞれの好みでやればよいよ

うだ。昨年はこの芋煮会に、飯盒炊さんを加えてみた。現地にある晋竹を利用して、酒を燗する「カッポ酒」と試みた。けっこう好評であった。メンバーの若い主婦が新品の飯盒を持参していたが、使い方が全く分からないという。同様のメンバーもいたので、我流ではあるが一応の説明と実地指導をした次第である。

本誌55号の随想「浦島太郎の

ハイキング」を、同じく若い頃から登山を趣味としている私もあるほどと頷きつつ続んだ。文中に「飯盒炊さんも使われなくなってしまう」とあったのが少し気になった。

「飯盒炊さん」は現に私も続けているし、山の店では今でも昔ながらの飯盒を置いている。「アウトドア」などカタカナ言葉が全盛の時代ではあるが、今のところ「飯盒炊さん」にかわる言葉が見当たらないのは、どうなのだろうか。ただ、飯盒炊さんをしている光景は確かに少なくなった。飯盒を物置の奥にしまいこんだままの人も多いことだろう。前述の芋煮会の例にもあるように、飯盒の使い方を知らない人も多い。昨年一年の間に、私自身が目にしたのは、カブスカウトの少年たちが北山の渓流で炊煙を上げていたのを、ただ一度見かけただけだった。また、飯盒を焚火ではなく、ガ



随想 (山のエッセイ)

スコロンで炊飯しているのを見かけたこともある。それでは飯盒の意味がない。そういえば最近山で焚火をすることも少なくなった(マイカー族による川原でのパーベキニーは多いが、これは別として)。防火や環境保護のためだろうが、「焚火禁止」の看板も増えたように思う。焚火そのものがやりにくくなっているのも確かだろう。このままでは「飯盒炊さん」が速からず死語になってしまうかも知れない。

「人が水辺に集う」ということは、人類にとって根源的な意味がある。古代文明も大河のほとりから発生し、人々は安住の地を水辺に求めた。水辺は人々の心に潤いと安らぎをもたらした。私の無理なこじつけかも知れないが、東北地方の人々が清流のそばで芋煮会をすることは、私たちが炊さんを楽しむことは、その原点ではないだろうか。

今の世の中、ハイキングの弁当などはコンビニエンスストアでも十分間に合う。何かと面倒で時間もおかる炊さんをわざわざする必要はない。しかし、この面倒なことをあえて実践している何かを取り戻すきっかけにも繋がるのではないか。

最後に、私の勝手な解釈をもうひとつ言わせてもらえば、ご存じ「山男の歌」の一節にも「飯盒の飯」がでてくる。「飯盒の飯」は山男の伝統であり、文化でもある。理屈は抜きにして、何れともあれ、実行あるのみ。物置の奥から飯盒を取り出して、早速にもやってみようではないか。「飯盒炊さん」を死語にしてはならない。

武田信玄の戦略

平良 一郎

凍死の寸前であった。三十数年前、真夏の北アルプス単独行で奥穂高岳から槍ヶ岳へ向かう縦横横走路でこのことである。

天候の悪化を予知しながら、強引に出発した。若かったせいもあって、恐れを知らずに、何とかなるだろうという楽観的な気持ちと、道具もあることだし、「雨が降ったら、濡れればいいや」とかいう歌を口ずさみながらの気楽な山歩きであった。ところが三千級の稜線上の風雨には、雨具はほとんど役に立たなかった。

雨は上から降るものとはかり思っていたが、横から下からの吹き上げには、当時流行のポンチは風にあおられて、下着も



随想 (山のふっせい)

ソックスもまたたく間に濡れてしまった。強風は体温を奪い、寒さと疲労で意識はもうろうとしていた。

どうにか槍ヶ岳の小屋にたどり着いたが、もう少しでも到着が遅ければ、終路でうすくまっけておけなくなっていたらう。生還できたのが不思議なくらいだった。

ところで、唐突だが、私のハイキング以外のもうひとつの趣味は読書である。とりわけ歴史小説を愛読している。

元暦二年(1577)、戦国時代末期、甲斐の武田信玄は天下統一を目指し、麾下四万騎の軍勢を率いて国府(現在の山梨県甲府市)を築き、西上の途に就いた。不幸にして、彼は志なからばで病に倒れて上洛を果たせず、織田信長にチャンスを与えることになる。

信玄の戦略は、敵を寄せつけず国外で戦い、国内を戦場にし

ないことである。そのために、当時他の武将が城を築いていたのに彼は、「人は石垣、人は城」というキャッチフレーズで生涯城を持たなかった。「攻撃は最大の防備である」という戦略を重視して、防戦設備を何となくはしなかったのである。

信玄の居館、鶴岡ヶ崎の館は政府と住居を兼ねたものであって、決して防戦の役に立つような、堀や石垣で守られた城塞ではなかった。

信玄は、居館が堀や石垣に守られる状態にまで達すると、負け戦だと考えていた。たしかに、本城近くまで攻め込まれた場合には支城は落ちていくし、領土は蹂躪されていく。領土の維持という意味で城塞はたいして役に立たない存在になっているだろう。

戦争での防戦設備は、ハイキングでは非常装備に相当する。ハイキングでは、武田信玄と

違って、防戦設備を持たないわけにはゆかない。つまり雨具やその他の非常装備は、万一の場合を考えて絶対に必要である。

ハイキングの戦略で武田信玄と異なるところは、高性能の非常装備を持つことであり、共通することは、それを使わないようにすること、使わないで済ませることである。

最近の雨具は、防水性と透湿性という相反する特性を同時に保持するゴアテックスという高性能の素材が開発されて、昔よりずっと安全で便利な装備になっている。

非常装備に頼らなければならぬ状態にまで達すると、負け戦、すなわち退避の一手手前である。それがどんなに高性能であっても、それが役に立つかどうか疑問である。

私はどんなに低い山を歩く時でも、レスキューシートをツェルトの代わりに常備しているし、

懐中電灯・携帯電話・ホイッスル(呼び笛)も持っているが、現在の私の体力では、このようなものを使う時には、助かる見込みは少ないと思っている。

気象条件の変化を予知して出発をとりやめるとか、引き返すかを判断する勇氣が、ハイキングにとってもっとも重要な戦略になるように思う。

「逆さ観音」新説について
—柴田氏への疑問—

榎本 逸雄

本誌第46号(99年5・6月号)の「随想」欄で、柴田昭彦氏が金剛アルプスの「逆さ観音」(大津市上田上相生町)について、「この石仏が逆さに転倒したのは山崩れによる災害も考えられる」と、新たな説を出しておられる。論拠にされているのは愛

石家・木内石家著『雲根志』後編だが、いくつか疑問がある。

まず、『雲根志』には異本が多く、柴田氏は複数の出典を列挙されているが、引用文はどれに依拠したのかわからない。柴田氏は中川(泉三)本も参考にしたように受け取れるが、築地書肆発行『雲根志』(1998)の解説によると、この復刻本は誤字・脱字が多いといわれる。

次に、『雲根志』文中の「観音石」は「逆さ観音」であると論証がないまま判断しておられる点である。同書によると観音石は、宝暦六年(1756)九月二十六日の山崩れで水が出た後みづかり、場所が、氏の引用文にもあるように「草津駅東の相生谷妙閑寺村といふ一祠」(の「後の山」とある。この相生谷だけ採用して、妙閑寺村は無視されたしかに、現在の相生は大津市上田上相生町を指す。しかし、

観音石の場所はむしろ妙閑寺村に重点があることにはなるが、木内石家の意図とするところではなからうか。ただ、この漢字名の村は近世・現代を通じて大津市や近隣の自治体に見あたらない。

更だ、方向のことだが、相生は草津の東方向でなく、南方向に近い。では石家の誤記だろうか。

築地書肆刊『雲根志』後編卷之三に「出石」が載る。日にちが違つが、同じ宝暦六年九月十二日夜に「草津の駅より東へ二里(里は約四町)ばかりの妙閑寺村(妙閑寺崩れ)が發生して三十余人が死亡」、「東坂村(築地本陣東門前更張)の中へ、大石出で、崩出石と名づく」とある。東坂は古刹金剛寺への東の登り口だった。石家は自分の足で歩いて東坂を記録している。この項では栗太郡、甲賀郡一帯に「震動雷電大雨」の大洪水が



随想 (山のエッセイ)

あったと記している。このことから、桐生は草津から三里にはとても遠くないから、鎌吉石の場所でないも推察できる。一方、妙閑寺村は記述の方向と距離などからみて、現甲斐郡甲西町大字三葉小字妙閑寺を指すものと考えられる。

妙閑寺村は、江戸期(明治八年の村名で、同年三雲村に合併した。当地に妙閑寺(本尊・千手聖菩薩像)があり、寺伝では南北朝時代初期、万里小路藤房の開基という。後の山に鎌倉後期か南北朝期作ともいわれる石造地藏菩薩像(坐像)があり、甲西町指定文化財である。清水俊明著「近江の石仏」、瀬川欣一著「近江 石のほとけたち」や大鏡八郎監修「日本の石仏」②近畿編(図書刊行会)にも紹介されている。

同寺の金井愚道律師の話では、地元で今も「宝曆の『妙閑寺流れ』」が言い伝えられ、寺内に

鏡性者を申って成名を嗣んだ供養塔が建っている。

鎌吉石のごとはご存知なかつたものの、状況としてはこの石は妙閑寺磨崖仏とみたほうが、石の記述に合っているようだ。これらの疑問は現地調査した結果でなく、柴田氏には申し訳ないが踏資料の誤りからいくつか気のついた点に触れたまでである。以上で、柴田氏の新説には今ひとつ首肯しがたいところがある。

なせ石平が、「桐生谷」・「妙閑寺」と記したのか大体の見当はつくが、今は確証がないので省略する。

ことわっておきたいが、これは論破ではない。柴田氏のご努力には敬意を表するものである。ただ、伝承については(限らないが)確証が出るまで多面的に検証すればよい、と思っ

最後に柴田氏は新説に基づい

て、「悪き観音」にふれた挿文や他書を批判しておられるが、妥当な説であれば氏のご意見は傾聴に値する。ご指摘は今後の糧としたい。「悪き観音」の「転倒」の原因については、転倒したのかどうかも含めて今後の検討課題としたい。



梅雨明けがないままの

朝日連峰と月山

松田敏男

東北

1998年の夏はいつまで待っても梅雨が明けず、すっかりしない夏だった。天候に左右されて仙台までの往復の夜行バスの乗車券を買い逃がしてはいけな

と、ひとまず一ヶ月前に買って置いて、梅雨が明けるのを、文字通り運を天にかせて待つことにした。出発直前になっ

り換えのバス待ちをした。役場で朝日鏡裏行きのバスのことを聞いてもすぐに返答がもらえない。そんなに入山者が少ないのだから。心もとないバス待ちの時間をひとりで過ごした。

やっと到着したバスには登山者が10名余り乗っていたので、バスの始発の左沢が入山の玄関口だということが分かった。どうにか入山できることにほっとして、徐々に道路事情が悪くなる足指を揺られながら進んだ。バスが山間へ分け入るほどに空は急に暗さを増し、また午後も

早めなのに夕方のような景色になった。朝日鏡泉に着いた時には強い雨が降り始めていた。少し思案したが朝日鏡泉に

蒸江山のハクサンシャジン

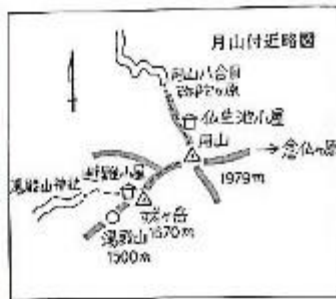


泊まる予定にはしていなかったこと、また、たぶん泊まり客が多くて私には不向きだとも思われ、予定通り鳥原小屋まで登ることにする。鳥原小屋までは深い樹林帯のはずだから、どんな雨でも大丈夫だろう。

歩き始めたのは私ひとりだけだった。小屋の下を吊橋を渡って暗くて深い樹林に入る。見事な太いブナの森だ。先程か



月山のハクサンフウロ



黒い
法被を
着た若
い人が
無表情
に放送
でもし
てるの
かのよ
うな口
調でそ

れだけ言ったり自分の仕事をしていた。山のおかげで生活させてもらっているはずの山岳修験道の人々の中に、時に隣りの態度を見てしまうことがある。乗鞍岳頂上では大量の空缶の放置、大徳山山頂上ではお花畑の裸地化など、山に信仰を求めている姿から程遠い。月山神社の裏に三角点があるようなで行こうとしたが、神社の入口で入山料金を支払わなければいけないことになっていて、その窓口の神官の表情を見て極度に暗鬱になり、濃霧のなかを南へ歩を早めた。

予定では念仏ヶ原避難小屋へ行くことを考えていたが、視界が悪すぎるので時間のかかる道をあきらめ、濃霧山道の避難小屋に行くことにした。ごちん側に来ると登山者はぐっと減って、静かな登山者だけの山になった。

牛首でほとんどの登山者は徒次に行き、そのあとがこれと同じ月山かと頼むほどの静寂な道になった。ニッコウキスゲの群落が続くもあり、その黄色の群落を包み込んでゆったりと緑の山体が裾野を広げ、眼下遠くまで続いていた。避難小屋に近づくと北からの沢と本流との合流に出た。滑々しい沢の流れとニッコウキス

ゲの群落がとても美しい世界をつくっていた。その出合の後には池淵があつて夢のような気分を味わうことができた。

避難小屋はとても小さな小屋だった。正面は姥ヶ岳の緑色の大きな山が視界いっぱい迫り、左奥に月山の頂上部へ向かう尾根が見えていた。静かな静かなひとときを一刻とも忘れないように大切にしなが、徐々に夜になっていく山の中の風情を、小さな小屋の周辺でひとりで占めして楽しんだ。

月山の次に鳥海山へ行く予定にしていたので酒田まで行ってみたが、また雨なのであきらめて帰ることにした。朝日連峰も月山も心残りの山となった。歩くルートや季節などを覚えて、また行きたいと思う。

(平成10年7月28日、8月2日歩く)

△コースタイム▽
朝日鉱泉(4時間)鳥原小屋(9時間)
大朝日岳往復、竜門小屋(5時間)以東小屋(6時間30分)滝滝小屋
月山八合目(5時間30分)避難小屋(1時間10分)濃霧山神社
△地形図▽順文社「朝日・出羽三山」



ワツボ薬下山のヒメサユリ

るヒメサユリだった。他の花から抽り離れ、花期に遅れた最後の一輪が雨をいっぱい付けてそよ風にふるえていた。品格が透っていた。美しかった。

その地点より急降下が始まり、太い幹のブナ林に入った。幹の太さ、立ち姿の風格は登り道のよりも立派だった。

大鳥池の小屋の前に着く頃、両脚が激しくなつた。帰りのバスの時刻から逆算しながら少し歩調を早め、深い樹林のなかを大鳥川の川床へのつづら折の道をくだった。

泡滝ダムより500mほど下流の所がバス停だった。雨が止んだので雨具をビニール袋に入れ、靴下や登山靴も脱いでザックにしまった。新しい靴下を穿き乾燥した運動靴に履き換えてすっきりした気分ですと息をついた。バスは私人を乗せて鶴岡へと下って行った。

鶴岡のビジネスホテルでプロ野球ニュースを見た。予定六試合のうち一試合のみ雨のため中止ということだった。雨で流れた試合は山形球場だった。関東以西は梅雨明けなのに、梅雨を求めてはるばる京都から山形にきているのだった。

次の日はたかさんの観光客の登山客といっしょにバスで月山八合目まで登った。八合目の弥陀ヶ原は広々とした気持ちのよい草原だったが、花期は過ぎていた。たかさんの人たちと行き交い、徐々に霧の深い山頂部へ登って行った。軽率としか思えないような軽装の人たちに出会うたびに憂鬱になった。

お花畑のなかの道は両側にコープが張ってあって、その中から出られないようにしてある。仏生池小屋の前になると、高度が上がったのでまだ花が美しく咲いていた。しかしそのお花畑のなかに圧縮された空缶の背丈ほどのブロックが散置かれていた。エアリアマップには東側に水場のマークがあるので、小屋に入ってから水場への道を訊ねると、

「ありません。ここは神の山です。道からは出てはいけません。」

KOBEの登山専門店

手作りザックの店です。
心ときめき、背負い易いザックです。

トレックオール45

- 2-3日の小屋泊りから本格的な山歩きに
- 対応出来るオールマイティモデル
- フロントメッシュ部分に大型ポケット
- 側面には片側はスルーポケット、片側はインサイドポケット
- 両サイドに大型ラウンドポケット・コンプレッションベルト
- 角は調整可能なインサイドフレーム内蔵

カラー ベージュ×ネイビー、ベージュ×ワイン、ベージュ×モスグリーン

全長 45cm 重量 1,700g
サイズ 16×35×70cm
素材 高強度ナイロン
価格 ¥15,800(税別)



IMOCK KOBE
神戸ザック
〒253-0074 神戸市東灘区 TEL-1
TEL107-51021-5551
FAX 621-3528

札幌近郊の山

無意根山と神威岳

吉田 信秀

北海道

札幌市第二の高峰である無意根山に登ろうと思っただのは、一ヶ月ほど前に札幌市への出張が決まってからであった。土・日曜日をはさんでの出張の折に登った山は、加賀の白山、神奈川の丹沢に次いでこれで三回目である。北海道への出張は、今後は二度と無いだろう。日本百名山以外の北海道の山に登るのはこれが初めてで、五回目の北海道の山である。

札幌市内での用務は7月31日の午前中からようやく終わった。JR札幌駅のコインロッカーに余分な荷物を預け、14時発の札幌市営バスで定山溪に向かう。札幌駅から定山溪までは頻りにバス便がある。定山溪観光協会の前でバスを降り、

案内所でタクシーを呼んでもらう。タクシーで白井川沿いの道を行き、豊羽元山の鉱山の上にある宿、無意根山荘に到着。案内所から約30分である。

無意根山荘の管理人の話によると、かつて、定山溪から豊羽鉱山までじょうてつバスが走っていたそうである。確かに私の調べた古いガイドブックには「バスが朝夕二便走っている」と書かれている。豊羽鉱山の住民が街に下りてしまったため、バスの必要がなくなった。バスが走っていた頃は、定山溪大蛇岳や余市岳からキロロへ抜ける縦走路を行く登山者がいたので宿泊者も多かった。しかし今ではアプローチが車のみとなって日帰りの登

大蛇ヶ原の温泉

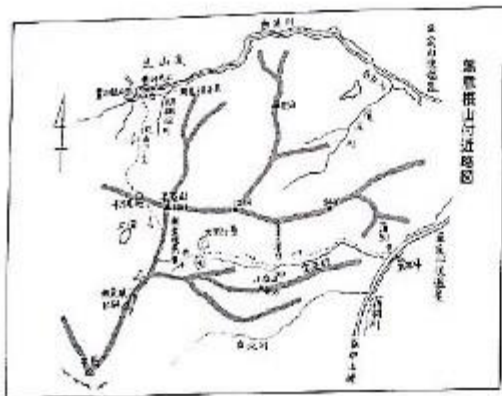


山者が多く、宿泊者は減ってしまった。この日の宿泊者は私一人だけだった。

翌朝の出発前、「昨夜は爆発の音がして驚きませんでしたか」と管理人。山荘の周辺一帯の地下部はすべて坑内であり、発破の音がするとのこと。しかし熟睡していたので気づかなかった。山荘の周辺でも温泉が出るが、鉱山の掘り返して地盤が脆く、お湯が引けないそうである。

無意根山荘の前が元山コースの登山口になっている。昨夜の天気予報通り、晴れている。ザックに付けたカウベルを鳴らし、ストックで下草を払いながら、針葉樹からダケカンバの混じる道を進む。

無意根山荘の管理人は「この辺でも熊は出るが、めったに出るものではないから心配はいらない」と言っていた。しかし、札幌の麓岩山のロープウェイ駅で見た熊の剥製は、無意根山の西側に当た



る京極町で捕獲されたものであった。そのことを覚えていたので少し警戒しながら歩く。

熊の出る北海道の山での単独行は少し不安だったが、登山口から千尺高地までの間、札幌市内から来たという単独行の男性とうまいぐあいに同行することになる。無意根山荘から一ピッチで千尺高地に着く。

千尺高地で札幌の男性と別れて先に進む。右手のダケカンバの枝越しに大沼を見て、チンマザサの斜面を分けて進む。薄別コースの分岐からハイマツ帯に植相が変わる。標度の高い札幌周辺の山とは違い、標高1500mに満たない山でハイマツ帯があるのはすばらしい。高山植物では、チンマギキョウやナガバキタアザミが咲いていて心をなごませてくれた。

10時ちょうど、無意根山(1464m)の山頂に着く。無意根山は札幌市の第二の高峰である。第一位の余市岳と山容が似ていて、冬季は積雪が多いらしい。そのため冬季はスキー登山の対象になっている。南北に1kmほど続く台形のような山容から、アイヌ語では「ムイネシリ」

と言われ、「箕の形をした山」の意味だそうである。

ハイマツに囲まれた山頂のケルンの傍で登山者が一人静かにくつろいでいる。あいさつを交す。560度の展望である。西斜面が岩場になった中岳への峻険が見え、眼下は湿原と原生林の広がりである。とくに、端正で美しい羊蹄山(アイヌ語で「マツカリヌプリ」)の味がすばらしい。しかし残念なことに、すぐにガスにかかれて見えなくなってしまう。

山頂の日だまりが心地よく、昼食をこって約1時間くつろぐ。少し遅れて着いた札幌の単独行の男性と別れて、先に薄別におりる。

元山コースと薄別コースの分岐まで戻り、チンマザサの生い茂るトンネルのなかをぐぐって行く。壁と壁は急斜面の下りである。背丈ほどあるチンマザサが足元をおおって非常に滑りやすい。膝を痛めてから下りが極端に弱くなり、一度滑って転ぶ。その後は慎重に歩いたので、予想外に時間がかかった。

ダケカンバのトンネルをくぐって沢を渡り、ようやく無意根山小屋に着く。北海道大学の所有で施設されており、中に

入れない。湿地上にあり、小屋の前はメジメシしていてあまり気持ちのよい所ではない。休憩もあまりとらず、すぐに出発すると、アカニソマツに囲まれた大蛇ヶ原の草原である。ワタスゲがそよ風にゆれている。大きなフキの葉がある。ぬかるみに足を取られないようにゆるやかな下りを行くと、あっさりと宝来小屋に着いた。

林道の終点である。林道越しに札幌岳から登壇の稜線が見える。右手に池を見て、トドマツの美林のなかを行き、薄別のバス停に着いた。バス停の向かい側に熊牧場がある。定山溪まで歩く予定であったが、交通量が非常に多いため、タイミングよく来たバスに乗って定山溪に向かう。この日は定山溪温泉に泊まる。

翌日、札幌から帰阪する前にもう一山登ろうと思ひ、交通の便と歩行時間を考え、定山溪の北側にある神威岳に登ることとする。定山溪大橋から始発のバスに乗り、神威岳の登山口がある百松橋のバス停で降りる。

豊平川を百松橋で渡り、10分ほど歩く和林道のゲートに着く。車が入れるのは

札幌駅のコインロッカーに預けた荷物を取り出し、空港行きの電車に乗った。
(平成10年8月1日〜2日歩く)

△参考タイム▽

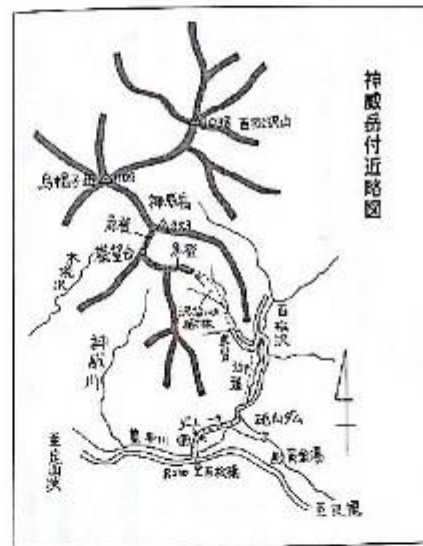
(7月31日)札幌バスターミナル14・30
(札幌市営バス)定山溪観光協会15・20
(タクシー)無意根山荘16・00(泊)



神威岳の山頂

ここまでである。車止め手前の空き地が駐車場に利用できる。空き地で朝食のパンを食べたのち、しばらく林道を歩く。右手に飯山ダム湖を見て、百松沢橋の手前にある近道コースに入る。橋を渡って林道をそのまま進んで行ってもよいが、近道コースを使うと林道歩きが少し省ける。再び林道と合流し、沢沿いのなだらかな道をたどると、ようやく登山口に着く。

小沢を徒渉すると、山道らしくなる。登山道はいったん沢を離れ、うっそうとした樹林のなかに続く。樹林帯の急登を



神威岳付近地図

過ぎると頂上近くの稜線に出る。展望台に近づくと、途端に植相が明るくなる。

登山口から一ピッチで着いた展望台は東側が開けただけのクマザサの斜面にすぎず、飯山山の山並みが見えるだけである。鳥籠子岳への分岐を過ぎると、最後は岩壁の西を控くように急壁を登ると、2、3分で神威岳(983.3m)に着いた。

百松沢山と札幌市街、そして定山溪と展望はあるものの、ハイマツもお花畑もないやぶ山である。あまりおもしろい山ではない。緯度の高い北海道周辺の山とはいえ、札幌近郊では標高1000mを超えないと、ハイマツやお花畑はないようである。

帰路は往路を戻すが、沢を渡って崩壊した道を過ぎるとほどなく登山口に着いた。百松橋のバス停から小金湯温泉で途中下車する。バス停にいた女性に温泉の位置を訊ねると、「一番奥の『松の湯』がひなびた感じでよいらしい。温泉で疲れをとり、ついでに昼食もとって、14時発のバスで札幌に戻る。

(8月1日)無意根山荘7・05〜千尺高地8・35〜45〜無意根山10・00〜11・00
―無意根小屋12・15〜25〜宝来小屋13・10
―薄別バス停14・50〜58(道南バス)定山溪観光協会15・10―定山溪温泉
溪流荘15・30(泊)
(8月2日)溪流荘5・50―定山溪大橋6・05(じょうてつバス)百松橋6・20
―車止め手前展望台6・30〜45―近道コース7・00―近道コースと林道との分岐点7・15―登山口7・30〜45―展望台8・45〜9・10―鳥籠子岳分岐点9・23―神威岳9・25〜45―登山口11・10―百松橋12・05〜10(じょうてつバス)小金湯温泉13・20―松の湯12・30〜13・30―小金湯温泉13・55〜14・00(じょうてつバス)札幌バスターミナル15・15
△費用▽札幌起点
札幌バスターミナル⇨定山溪 (札幌市バス) 750円
定山溪⇨無意根山荘 (タクシー) 3900円
薄別⇨定山溪 (道南バス) 140円
定山溪大橋⇨百松橋 (じょうてつバス) 160円
百松橋⇨小金湯温泉

(じょうてつバス) 1400円
小金湯温泉⇨札幌バスターミナル (じょうてつバス) 680円
無意根山荘 乗泊費 1600円
夕食 800円
朝食 600円
弁当(おにぎり3個) 300円
定山溪温泉「溪流荘」一泊夕食付 5116円
△地形図▽
2万5千⇨無意根山・定山溪・手箱山
△問い合わせ先▽
札幌市営無意根山荘 011(590) 2122
無意根小屋(北海道大学学務部室三課) 011(715) 2111
定山溪観光協会 011(598) 2012
定山溪温泉旅館組合 011(598) 2537
じょうてつバス 011(572) 3131
道南バス 011(261) 3601

ダイヤモンドコース・展望の山旅

薬師岳・黒部五郎岳・三俣蓮華岳

日野節雄

北アルプス

はじめに

昨年夏銀岳(鳥羽子岳・槍ヶ岳)を見た、薬師岳から黒部五郎岳の長大な尾根を歩きたいと思うと同時に、歩けるだろうかという危惧が先に立つ。なにせ66歳だから。それに見ていただき、昭文社地図の「銀・立山」の北から南下し、下山路はスケールアウトしてしまおうコースです。計画してみると、一日10〜12時間以上の行動、総距離62・9km(山溪・山の便利帳より)となる。その上登降差も大きく、生半可では行けない。地図を読んでいたため息が出た。幸い若い二人の力持りが賛同してくれた。最初、雄山と鷺羽岳か笠ヶ岳の百名山も計画したが、以前三人

一緒に登った山なので止め、一日予備日をもつことにした。往復の足が便利で安いのは驚いた。

一日目 室堂から五色ヶ原へ(行程8.5) 前後、新宿・都庁地下を出発した夜行バスは、明日が覚めると弥陀ヶ原を走っていた。

一ノ越への登降した道から右に入ると、踏み跡の少ない、岩石の登りづらい道となり、重荷とあってけっこうきつい。浄土山で一瞬霧が晴れて薬師岳の山頂を見るが、濃い。常山大学立山研究所の前を通り、龍王岳の右寄りを通る。今年降雪がなく、危険な雪渓はない。鷺ヶ岳で

スゴ乗越小屋より見える越中沢岳とスゴノ頭



見た五色ヶ原は広大だ。ふり返るともっとう広い今朝バスが走った弥陀ヶ原が見える。

佐々成政の伝承があるザラ峠で、西側の谷の下の方にクマを見つけた。何を餌にしているのだろうか。ひと登りで廃屋の五色ヶ原ヒュッテを左手に見る。テントに入ってしまったと、一周する放棄がおうになるだろうと、山荘の方には行か

ず、南東の木道を行くと広いテント場があった。水場は蛇口付きできれいな水だ。単独行の男性にあいさつされ、食料を出し合って談笑する。何しろウイスキーを「肩持」て来た人だから。夕方に一時雨が降ったが、Sさんのゴアテックス製のテントは新品だから心配ない。

二日目 薬師岳まで頑張る(行程14.5) 昭文社の地図を読むと、五色ヶ原から薬師岳山荘までの行程時間は11時間90分

である。普通はこれを見てスゴ乗越小屋で一泊し、太郎平小屋まで二日をかけて。 星堂の下でテントを撤収し、五色ヶ原山荘まで木道を登ると、裏銀座全山が見え明けの空にシルエットとなってきれい。北には雄山が山頂に村を頂き、左右に鬼岳・新ヶ岳を従えている。景色を見ながら朝食にする。 登山へはひと登り。ここに来て気がついて、昨夕の雨で草木が濡れていて、

先頭の下は下半身びしょりになってしまった。 行く手には薬師岳・黒部五郎岳・笠ヶ岳・鷺羽岳・水島岳・野口五郎岳・赤牛岳と並ぶ。槍ヶ岳は雲で見えない。右に遠く、それと判る先達登った加賀の白山が見える。今年はこの白山ですら雪が全然ない。ふり返ると鬼岳の左肩に銀岳も顔を出し、眼下一面は山荘を中心として広がる五色ヶ原だ。 越中沢岳までは時間がかからないが、



薬師岳・黒部五郎岳・三俣蓮華岳付近略図



黒部五郎岳にて（後方は笠ヶ岳）

と呼んでいる。しかし低い登降がずっと続く。トウヤクリンドウが登山道にまで咲いている。最後に岩の急登があって、ようやく肩に出る。リュックを置いて、牙を削っているような山頂へ登ること10分。ゴイロ石は少なかった。

長い間窓魚がれていた（久窓の）黒部五郎岳の山頂に立った。南に笠ヶ岳が近く、その左は穂高から槍だが、槍の穂先

ここから登降が激しく、くだりに弱い私は後発の人に追い抜かれて、やっと乗換小屋に着いた。登降して来た越中沢岳やスゴノ頭を見ると、よく歩いたものだと自分ながら感心する。早速、小屋の水道の水を飲み、頭からかぶる。

小屋から薬師岳山石まで5時間はかかるので、少なくとも12時には出発しなければならぬ。閉山まで標高差3000級の急登を一時間で登る。遠くの山は雲がかかって見えないが、頭上は真夏の太陽が照りつける。賢次だが、天気の良いのも程度問題だ。ここからも危険な所はないが長いし、北薬師岳に近づくといわゆるゴイロ石（大きな石でガタガタ鳴る）で歩みにくい。五郎岳の名の起りや聞くと北薬師岳にもあった。途中会ったのは学生グループだけだった。

閉山を過ぎたあたりで、Kさんが気分悪くなって横になった。Kさんが朝食も昼食にもほとんど食べていないので、私は「おなかが減っているんじゃないかな。何か食べたらい」と言った。Kさんはパンを食べた。Sさんが「健康ゼリー食」を出して「これ、とってもいいよ」と渡す。20分たらずで「もう大丈夫。若い頃

は平気だった人だがな」といって腰をあげ、「腹が減っては腹は出来ぬだな」と笑った。

そのころ私も腹が膨らんで「つるのかな」という謎返りの前兆があったので、道を少し口に入れ水を飲んだ。人一倍汗をかき私は、初夏からボカリスニットを飲んでいるが、それでも肌返りになる。そんな時には塩水を飲むとすぐに治る。

薬師岳へは16時12分に登頂できた。万歳！山頂は太郎平から山石の人が多い。祠を覗くと金色の仏像三体を始めとして、多くの仏像がまつられていた。中央カールの上の赤牛岳から水晶岳は、西口を受けて赤く輝いている。急なぐだりの崖原を小屋へ急ぐ。愛知大生遺跡碑を触ってみた。

このあたりにテント場はなく、薬師岳山荘へ泊まる。おいしい食事で、山小屋がそれぞれ努力しているのが感じられる。混んではいたが布団一枚に一人とはありがたい。水は天水なので、飲み水としてペットボトルを販売している。

三日目 黒部五郎岳へ（行程170km）
3時頃から薬師岳山頂の御米元を見よ

だけが雲をかぶって顔を出さない。眼下に大きな五郎カールが見え、その右上にボンと赤い黒部五郎小屋が見える。カールへの急斜面というより、壁をくだる人も見える。長居をしたいが先のことがある。以前、1女史がすすめてくれたカールの雪解け水でソーマンを茹でて食べる。薬味はミョウガ。ずつと背白って来て重かったおんじい。近くに缶ビールを冷やしている若者グループがいた。

山頂から見た小舎はとても遠かった。やつと小舎に着くと、先の単独行の男性がウイスキーを冷やしてベンチで待っていた。今夜も晩餐会となり、写真を撮りに来ていた「山溪」までが、試食していった。水とトイレは、小舎にあるので5分かけて行く。

四日目 三坂葎岳・双六岳からわさび平まで（行程18・9km）

朝食後、小舎の裏から急登2500級、30分はきつかった。そこからハイマツ帯を通過して、展望最高の三坂葎岳の山頂に着く。葎高から槍、左に北嶽屋。その下に笠ヶ岳。北に鷲羽岳が大きく、直下に三坂山荘がある。望遠鏡は野口五

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発株式会社へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (26人乗り)
 - ・中型 (43人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンのカーからアボックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市津池本町1-20 オカダビル4F
電話06(6745)3911・FAX06(6745)3983
〔夜間・電話06(6945)0816・FAX06(6945)9344〕

うと起きる人のガサゴソで目が覚めてしまふ。朝食後外へ出ると、雲はあるが雨の心配はなさそう。太郎平小屋やキャンプ場からの登頂者が多く、道を譲るのでたびたび足止めとなる。沢状の所をくだり、キャンプ場のある薬師峠へ着いた。狸物の裏手1分の所に水場やトイレがあり、その立派さに感心する。

太郎平小屋から雲ノ平への道を左に分けて、広い草原を北ノ俣岳へ登る。左奥に雲ノ平がゆるゆると見える。

北ノ俣岳の北西の下に有峰湖。黒部五郎岳は南東に大きく巒を広げて来い

郎岳が見える。立山から歩いて来た山。山。薬師から黒部五郎、そして笠ヶ岳と続く。富山湾・能登半島も霞んで見えない。今までにこんなに良い展望に会えた山はどこだったのだろう。昨年の野口五郎岳。南アルプスは赤石岳か。ゆっくりくだり、少し登り、下を見ないでも歩ける緩急歩で、名もない草原を歩き、100級だったって100級の岩盤を登ると双六岳だ。岩盤をくだると有名な花の広場となる。ここからの槍ヶ岳の写真は良いというが、今は雲のなかだ。トウヤクリンドウが咲いていた。

三人共花オンチで、咲いていた花の10分の1も名前が分からなかった。今年はどこも花の咲く時期が早く、北アルプスも例外ではないのだろう、少ないと思った。同定できたのは、ハクサンイチゲ・チングルマ・シナノキンバイ・ヨツバシオガマ・イワギキョウ・トリカブトぐらい。好きなコマクサ・イワカガミがなく、コバイケイソウはなぜかどこでも一本も花をつけていなかった。

双六小屋のラーメンを食べ、コーヒーを飲み、嫌いな1300級のくだりに入るが、その前に1時間の登りがある。鏡

アミューズトラベルの山歩き

全てのコースで、経験豊富な社員ツアーリーダーがご案内いたします。
初心者の方や中高年、女性一人様でも安心してお申し込み下さい。

月山と鳥海山	7/17(土)~20(火祝)	催行決定	¥115,000
鳳凰三山縦走	7/18(日)~20(火祝)	催行決定	¥59,000
羅臼岳・斜里岳・燧阿寒岳	7/18(日)~21(水)	催行決定	¥149,000
荒川三山~赤石岳縦走	7/22(木)~25(日)	催行決定	¥82,000
甲斐駒ヶ岳と仙丈岳	7/23(金)~25(日)	催行決定	¥63,000
五色ヶ原~薬師岳	7/26(月)~30(金)	募集中	¥78,000
奥穂高岳~前穂高岳	7/29(木)~8/1(日)	催行決定	¥75,000
黒部五郎岳・三俣蓮華岳・双六岳	7/29(木)~8/2(日)	催行決定	¥85,000
日本第2位の高峰 北岳	7/30(金)~8/1(日)	催行決定	¥58,000
大雪山・北嶺岳とコマクサ平	7/31(土)~8/3(火)	催行決定	¥132,000
大雪山縦走と十勝岳	8/4(水)~7(土)	募集中	¥147,000
沼ノ原~トムラウシ	8/4(水)~7(土)	募集中	¥135,000
雲ノ平~鷲羽岳~水晶岳	8/6(金)~10(火)	催行決定	¥85,000
白馬岳~雪倉岳~朝日岳	8/6(金)~9(月)	募集中	¥68,000
幌尻岳	8/12(木)~15(日)	催行決定	¥152,000
木曾駒ヶ岳~空木岳	8/13(金)~15(日)	催行決定	¥65,000
塩見岳	8/13(金)~15(日)	催行決定	¥67,000
針ノ木岳~蓮華岳~爺ヶ岳	8/19(木)~22(日)	募集中	¥61,000
駒岳と立山縦走	8/20(金)~23(月)	催行決定	¥68,000

日帰りから海外までのパンフレット(84ページ)があります。ご購入下さい。(送料無料)
アミューズトラベル株式会社 電話 06-6265-3303
 運輸大臣登録旅行業第1336号 (社)日本旅行業協会正会員
 〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館8F FAX 06-6265-3306
 E-mail amtosa@po.teleway.ne.jp http://www.amuse-travel.co.jp

平山荘を眼下に見てくだった。大勢の人がいて、屋敷にも泊まるという人が多し。私も右様に針で刺すような痛みがある。でも、「泊まってゆくよ」といふと、「二人は「マイペースでよいからおろ」と許してくれない。これからの長丁場を知っているのか、いっさうするかと思いついたが、なせか痛みが治まっていた。

シンドロイドが原から下を見ると、工事の車輪が小さく動いている。あそこまでくたさるかと思うとぞっとするが、登って来る人がいるのだから感心してしまう。本場では休んでいると、10数人の団体が鏡平へ泊まると言っていて行った。

林道に出て10数分でわきび平小屋に着く。まよう中に帰ろうと思えば新穂倉33時と遅くなるが帰れる。だが多難日がある。明日早立ちということになり、早速小屋前のテーブルで乾杯した。今夜はいくらでも飲める。

五日目 湯京(行程5.5)

新穂高温泉バス停前にある村営無料公衆浴場は9時30分前からと書いてあるが、男風呂は開いていた。途中管理人が見に

またが何とも言われなかった。小屋で「24時間入浴できますよ」と聞いてはいたが。

一番のバスで平湯温泉へ行き、バスターの食堂で完歩祝いの食事をした。高速バスで半分戻ってしまった。

山良し、天気良し、仲間も良しの五日間だった。全コース、トップで歩かされ、私の足に合わせたくれた若い二人だった。(平成10年7月24日~28日歩く)

△参考タイム▽

新穂2・30(バス) 食堂6・45~7・30
 浮上山9・30~40(サラサ) 12・15~13・00
 五色ヶ原14・00(泊) 14・15~山荘4・35~5・00(中沢岳) 7・25~40
 スゴノ頭9・00~30(スゴノ頭) 10・45~11・35(北薬師岳) 15・00~15・薬師岳15・12~20(薬師岳) 17・00(泊)
 5・20(薬師岳) 6・15~30(太郎平小屋) 6・40(北ノ保岳) 8・30~9・00(黒部五郎岳) 12・20~40(カール鞍) 13・15~14・30(黒部五郎小屋) 15・30(泊)
 5・45(三俣蓮華岳) 7・40~8・00(双六岳) 9・15~20(双六小屋) 10・05~50(鏡平小屋) 12・40~55(わきび平小屋) 15・

30(泊) 5・15(新穂高温泉) 6・05(55) 平湯温泉バスターミナル7・28(8・55(バス) 新穂高温泉バスターミナル13・

△費用▽

新穂立山室堂(バス) 13000円
 テント場賃料 各場所 一人 5000円
 薬師岳山荘 1泊2食付き 8300円
 弁当 800円
 新穂高温泉~平湯温泉 870円
 平湯温泉~新穂(バス) 5700円

△地形図▽

5万1立山・槍ヶ岳・上高地
 昭文社「観立山」「上高地・槍ヶ岳」

△連絡先▽

五色ヶ原山荘 0764(82) 1940
 スゴノ頭小屋 0764(82) 1917
 薬師岳山荘 0764(51) 9222
 黒部五郎小屋 双六・鷲平・わきび平各小屋
 共通 0577(34) 6268
 毎日新穂旅行 03(32) 16(5) 341
 濃飛バス 0577(32) 1688
 京王高速バス 03(53) 76(2) 2222

新ハイ例会・自然観察山行

爺ヶ岳・針ノ木岳・蓮華岳

鷲見守康

北アルプス

98年の夏に、新ハイ例会山行で、後立山連峰の唐松岳から爺ヶ岳までの縦走を行った後、その縦道として、蓮峰の南端になる針ノ木岳・蓮華岳山行の構想を胸に抱き、ずつと温めていた。そんな折、自然観察会活動の関係で、蓮華岳のコマクサを中心にした針ノ木・蓮華の自然を探訪する必要性も生じたことから、予定より早く、98年8月上旬に実施することとなった。

一日目 爺ヶ岳へ登る

早朝の扇沢はよく晴れ上がり、大気はキラキラときらめいて、西に見上げる稜線は朝日に映えていた。夜行列車や夜行

ユリ属に近いものと自己流で理解してしまっているのだが、自然観察の仲間とは、毒性があるとしても致命的なものではないだろうから来夏にでも試食してみようか、などと話し合っている。

周回にはガスが出てきたものの、時どき空もどき、やがて青空をバックにした稜線には種池山荘が望めるようになった。4時間を要して登りきった山荘前のお花畑は、コバイケイソウの群落で名を馳せているが、今夏はエネルギーの充電中で、ほとんど花を付けていない。



バス、マイカーで各々時刻6時までに集まった参加者15人は、バスターミナルで洗顔し、朝食をとり、身仕度を整えた。

6時40分出発。バスターミナルから少し戻った地点に柏原新道の登山口がある。そこからすでに重高山帯針葉樹林で、コマクサ・オオシラビソ・キタゴヨウ・クロベなどマツ科やヒノキ科の樹木が林立している。ホンシヤクナゲもかなり目に付いた。

今夏は花唐が早いせいか、草木があとこちらに実をつけている。バラ科のベニバナイチゴ、ツツジ科のアカモノ・クロウズゴ・オオバズノキ、メギ科のサンカヨウなどは生食に適しており、暑い登り坂ついでに。

山荘の広場で昼食休憩。昼食後ザックを山荘に預け、爺ヶ岳に向かう。南峰への登りでふり返ると、西に立山連峰が屹立し、銀岳の威容がすばらしい。山荘の礎つ種池を前景にして、まさに「絵になる」風景である。

南峰には勞せずして立つ。メンバーの大多数は南峰からさらに中央峰へ向かったが、私はサブリーダーにお願いして数人の方と南峰に残った。北に鹿島槍ヶ岳、南には北アルプス中・南部の峰々が遠く続き、それらの山岳の美しさを愛でながら、ゆっくりにアルプスで、このうしたひとときが私はたまらなく好きだ。山の自然と向かい合って自らを開き、ありのままの自分自身を受け入れ、自然の大きさに耳を傾け、ただひたすら生きていることの喜びを噛みしめる。何か得をしたわけでもなければ、他人との競争に勝ったわけでもなく、名譽や社会的地位を得たわけでもない。そのような日常生活の価値観から解放された、心寂からの至福感に満たされる。

山荘に戻り着いたのは、13時30分。私たちパーティに、男女別に二部屋の割り

種池山荘から遠く針ノ木岳と蓮華岳を望む



でひとときの安息を与えてくれる。

ユリ科のタケシマランの透明感ある赤い実がみずみずしい。いかにもおいしそうだが、メンバーの皆さんには有毒であると説明した。しかし、実はいろいろ調べてもはっきりしない。ユリ科の草には、舌知りがよく口の中にはのかな甘味が広がるものが多いのだが、その一方で毒性の強いものもある。私は毒性のあるチゴ

当てがあった。各々の部屋で荷物を解き、着替えなどを済ました後、夕食までの時間を談話室でくつろいだ。

二日目 針ノ木・蓮華を歩く

ひんやりとした大気に包まれたさわやかな朝、ほとんど雲のない空の下、四方をぐるりと山岳が囲んでいる。

きょうの行程となる岩小屋沢岳からのびる稜線が針ノ木岳、蓮華岳に続いていく。池平線の上の見通しもかなりよく、上越の山々、八ヶ岳、南ア、富士山が見える。山荘前のハイカーたちが見事な風景を堪能している。

5時50分に山荘を出立。キャンプ地を過ぎるとキヌガサソウの群落を見て、すぐタヤマアザミ・ヤマトリカブト・オオレイジンソウ・ミヤマシンドウなどの高草草原のなかを歩く。

岩小屋沢岳への登りの手前でAさんが縦走を断念し、種池山荘から柏原新道を引き返すことになった。昨日の登り始めから体調を崩していた。山荘で一泊すれば好転するかも……という期待も空しかったようだ。自分がリーダーを務める山行パーティのメンバーが、中途で下山する



針ノ木岳から眼下の黒部湖

のを見送るのは初めての体験であった。Aさんと別れて隊列の先頭に戻ると、心がすかすかに動揺しているのを感した。きっぱりとあきらめたAさんのこやかな様子や、下山路の状況を考えるとほとんどの心配は要らないのだが、Aさんに申し訳ないような思いが拭えない。種池から岩小屋沢岳、鳴沢岳、赤沢岳、スバリ岳を越えて針ノ木岳に至る種池歩

60度のパノラマだ。メンバーには、田代博・藤本一美共著『感望の山旅』の針ノ木岳からの展望図のコピーをあらかじめ配布しておいたので、食中をしながら南方の山々の山並同定を楽しむ。針ノ木小屋に到着したのは14時。稜線のピークを五つも越えて来たのだから、ここでひと息つきたいところだが、翌日の天候はおもわしくない。時間的に余裕はあるし、明るく穏やかな空気にも惹かれていたことだし、いっそのまま蓮華岳も踏破してしまおうと美談一決し、ゼツタをデポして空身で再出発。なだらかな稜線を描く遊藝匠は全体が花崗岩の岩屑の山で、たいそうのびやかで明るい。植相もハイマツ・コマクサ・オヤマソバ・イワベンケイ・タカネスミレなど、ごく限られた高山植物が点々と生えているだけである。コマクサはほとんどがすでにしおれている。やはり、今年の花暦は早いのだ。コマクサは他種の草ばかりか、身内さえ傍には寄せつけず、一つ一つの株が離れ離れに生きている。他の草が入り込めない岩屑の斜面に、厳しい風雪にも耐えて孤高を生き抜いているのだ。

きは危険な箇所はないものの、アップダウンの繰り返しが予想したよりけっこうきつい。とりわけスバリ岳は露岩帯もあり、鞍部から見上げるピークは短く、高低差250mの登りは厳しい。

そんなアルパイトを強いられてたどり着くそれぞれの頂からの山岳景観は任務で、たとえようもない。すばらしい天候で十分な見晴らしがあり、白黒湖から乗鞍岳まで北アルプスのほとんどの山岳を望むことができた。西に並ぶ御・立山連峰は、まさに絶景である。赤沢岳に達すると黒部湖と立山大観峰は眼下である。

山歩きを始めて一定の経験を積み重ね自信がつけば、日本アルプスなどの高山も歩いたほうが良いと私は考えている。山歩きの喜びを深くすることができればいい。いや、山歩きという領域だけにとどまらず、生きることに意味を深くし、生きる喜びを感じることもなるだろうと思っている。

低山には低山の魅力があるけれど、3000m級高山岳の森林限界を抜けた高山帯は、全く新しい世界である。氷河地形や周氷河地形、そして高山植物で造形された稜線やピークは「浄土」とも「神々

の庭」とも形容され、日常にない色調に彩られた美しさがある。このような高山帯を歩けば心を描きおられるような感動に包まれることもあり、人生観に変化の起きることもある。だからこそ、人は山に登るのだと、私は考えたい。

稜線上には、所どころ高山植物の株がある。タカネヨモギ・タカネニガナ・チシマギキョウ・ヨツバシオガマ・エゾシオガマ・シナノオトギリ・ハクサンフウロ・ミヤマダイコンソウ・ミヤマキンポウゲ・イワツメクサ・ウラボシロタデ・テガタドリ・クルマユリなどお馴染みの顔ぶれである。枝先を白い綿毛に包まれた低木には、登山者が少なからず関心を寄せる。ヤナギ科のミヤマヤナギ（ミネヤナギ）だ。こんな高所にヤナギがあると思うと驚く人が多い。

スバリ岳からくだった岩壁地にはちらちらとコマクサが咲いている。満開の時期は過ぎたようで、花弁はすっかりおられていた。

この山行のメインの一つである針ノ木岳山頂に立ったのは、13時少し前。旭平線の上まで遡り通っていた早朝に比べれば少し疲んではきたものの、依然として3

三日目 扇沢へ下山

目が覚めると、厚いガスに巻かれている。小雨も降っているようだ。昨日のうちに蓮華岳を登っておいでよかったと思う。まよよりは、扇沢への下山だ。雨具の用意をして出立。

赤茶色の砂地の急斜面をジグザグに下降していく。タカネヤハズハハコ・ウラギキク・クロウトウヒレン・ミヤマタワガタ・タテヤマワツボグサ・ミヤマダイモンジソウ・コウメバチソウ・クモマナズナなどの花を見る。なかなか植物が豊かだ。観察を楽しみながらくだる。下の大沢小屋から登って来るパーティが多く、朝のあいさつが飛び交う。

日本三大雪渓の一つ、針ノ木雪渓もこの夏はすっかりやせ細っているが、下りなので全員にアイゼンを装着してもらおう。雪渓の天端でアイゼンを外し、左岸に渡って樹林帯に入るとさまざまな花に出会う。

大沢小屋で大休止。小屋を過ぎるとやがて自然遊歩道の表示があってブナ林に入る。比較的若いブナだが、山旅の疲れを癒してくれるようで、心がよくらみ気持ちがいい。

メタカラコウ・キオン・ソバナ・レンブクソウ・トモエシオガマ・ミンガワソウ・テンニンソウ・ヤグルマソウ・モミジカラマツ・オオイトドリ・エゾアジサイ・ノリウツギなど数々の花を見る。針ノ木岳の植物相の豊かさを実感する。

9時には扇沢に戻り泊りして解散。2泊3日の想い出を胸に、行業客の行き交うなか、帰路に着いた。

(平成10年8月9日～11日歩く)

△コースタイム▽

- △一日目 扇沢(4時間) 蓮池山荘(1時間) 爺ヶ岳(40分) 種池山荘
- △二日目 種池山荘(2時間30分) 岩小屋沢岳(2時間) 赤沢岳(1時間30分) スバリ岳(1時間) 針ノ木岳(30分) 針ノ木小屋(1時間) 蓮華岳(40分) 針ノ木小屋
- △三日目 針ノ木小屋(2時間) 大沢小屋(1時間) 扇沢

(実際の歩行タイムは本誌43号の山行報告90ページ参照)

△地形図▽昭文社「鹿島嶺・黒部湖」

中央アルプス北部縦走

木曾駒ヶ岳より空木岳

榊原計国

中央アルプス

木曾駒ヶ岳(2956・3031)には自分の足で歩いて登りたい。ロープウェイを使って千俣敷からは何度も登ったことがあったが、下から歩いて登ったことはなかった。ただ、そうは思っていたもののロープウェイで上がってしまう所に歩いて登るといふのはどうも気が進まず、月日が経っていた。今年、ロープウェイが改修工事で秋まで止まるという。さっそく駒ヶ岳から空木岳(2889・771)の縦走に出かけることにした。

当初考えたのは、駒ヶ根高原から北御所登山道を経てうごんや峠へ上がり、駒ヶ岳から南に縦走して空木岳に至り、池尻尾根をくだって駒ヶ根高原へ戻るという

うものだった。駒ヶ根高原から北御所登山口へは、バスを使うつもりだったが、ロープウェイが止まるとバスも動かないのではと思い、駒ヶ根市の観光課へ尋ねてみた。バスが動かないなら、静かな車道歩きのもりで行くのも悪くはないと考えていたが、観光課は、バスが止まるだけではなく、道路工事のために道も歩けないという。今回の交通手段は車を考えていたので、元の場所に戻るにはどうしたらよいかいろいろ考えてみたが、どうも宮田高原を廻り黒川渓谷を経て、うごんや峠へ出るしかない。

しかし、駒ヶ根高原より出発して北へ大きく廻り込み、標高差2000以上に上るの浄土乗越へ上がってから、さらに南に縦走し、その日の宿泊予定地の松尾遊歩小屋にたどり着こうというのはいさづいぶん強行軍だ。そこで、車で宮田高原まで行き、そこから歩き始めて最後は駒ヶ根高原からタクシーを使って宮田高原へ戻ることにした。途中で分かったことだが、伊那前岳近くで会った人は北御所登山道から来たという、確かに道路は工事をして



松尾岳山頂より空木岳

ていたが、通るには何の支障もなかった。それが、ダマされたようで悔しかったが、観光課の人も現地の詳しい状況までは分からなかったのだらう。

宮田高原の駐車場で身仕度をして9時10分出発。今回は無人小屋泊まりの予定だったので、もっぱら日帰り山行の私としては慣れない大荷物となった。あとで考えてみるといさづいぶん余分な物があり、さらに重くなっていった。これが大きな問題を引き起こすことは、その時は思いもよらなかった。

長い林道も木々に囲まれそれなりにいい



木曾駒ヶ岳・空木岳付近略図

い雰囲気だったが、徐々に荷物の重さがこたえてきた。靴は「ず」と履いているローカットのものであったが、重い荷物を背負って歩いたことがなかったので足わめ事案となった。今まで起こったことがない靴ずれだ。始めは少し気になる程度だったが、徐々に痛みだした。伊勢道の立派を過ぎ、登山道へ入ってから休憩時に靴を脱いでみると、かかとの部分が直径4センチ位の円形に赤くなっていて、こう痛む。以前に入れておいたはずのバンソウコウも一度も使用しないうちにザックから消えてしまっていた。通りがかった登

山者に分けてもらって張り、ティッシュを靴とかかとの間に挟んでおいた。いざという時の備えは普段使わないといってもきりんと持っていないとはいけないと反省した。

11時05分、黒川沿いの登山道と分かれて黒川を渡ると、すぐにうごんや峠の急登が始まる。この名刺(きり)うごんや峠でもあったのかと思ったが、どうやら峠までのこのつづら折の道を描するらしい。標高差2000以上を必死になって一気に登ると、南側方面の展望がよいうごんや峠に出た。駒ヶ岳・宝剣岳方面はこれから行く尾根に隠れて見えないが、でこぼこした西沢大峠から長い尾根を引いた松尾岳が見渡せる。そしてその向こうにはピラミッド的な空木岳も控えている。松尾岳の山頂から少しくだった尾根上には、きょうの宿泊予定の松尾遊歩小屋がかすかな点のようには確認できる。

ひと休みしてから尾根の被線上を歩くが、木々に囲まれ視界はない。45分も行くくと、少し色づいたナナカマドがおおおう一丁ヶ池に出た。このあたりは二重線のような地形で、その間に水が溜り、細長い池となっているようだ。ここでまた

休みをとる。ほんとうにきつい。荷物はますます重く感じられ、かかとの痛みは強くなるばかり。予定通り歩き通せるか不安がいっぱいだ。池から少し行くところ開いたような広場に着く。ここが小屋場と言われている所で、最初に千畳敷山荘を建てる際の資材置き場として使われたようだ。長谷部新道の分岐を左に分け、さらに行く。一丁ヶ池のように水に溜っていないが、舟漕と呼ばれる細長く窪んだ所を過ぎる。樹木の株相が少しずつ変わり、ハイマツの混じる丈の低い木々になって、あたりの屋根や稜線が見えてくる。ジグザグの急登を休み休み行くが、とにかく荷物が重い。自分で用意してきたながら、「いったい何を持ってきたんだ」と怒鳴りたくなる。

ハイマツが広がる尾根の稜線に出ると、視界は360度に広がり、普段であれば快適な稜線歩きとなる所だ。しかし、きょうは我慢の登行だ。伊那前岳を目前にした所には、八合目の木柱と共に洞や石陣が建っている。伊那前岳を過ぎ、2911mピークを左から巻いて千畳敷からの登山道を合わせると、浄土乗越に14時34分到着。

時間・体力に余裕があれば、山頂往復も考えていたが、きょうはとてそんな状況ではなく、すぐに宝剣岳へ向かって歩き出す。10分ほどの岩登りで宝剣岳山頂到着。山頂からの眺めはあちらこちらにガスがかかり、すっかりしたものは言えず、時どきガスの切れ間から駒ヶ岳本峰や工事中のホテル千畳敷のあるカールが見えるくらいだ。予想に反して山頂付近には私のようなへそ曲がりが出ていて驚いた。荷物を少しでも軽くしようとして重い物から食べたが、たんまりとあるので、まわりの人たちにも手伝ってもらった。かかとの痛みはさらにひどくなっていたが、食事をして気分を入れかえ、松尾岳をめざして進むことにする。山頂を15時22分出発。

機つものピークを越えて松尾岳をめざすが、まわりはガスがかかり展望はきかない。少しは軽くなったはずの荷物が疲れてさらに重く感じられ、ほんとうにまいった。そのためか、濁沢大峠の手前から見えた遊離小屋が、松尾岳のさらにはるか奥にあるように感じられ愕然とした。途中の鞍部でピークしている人がいた。私もよほど予定を打ち切ったのでピーク

クしようかと考えた。

最後の登りを必死にたどり、何とか松尾岳の山頂に着いたころには、すでにあたりは薄暗くなっていた。18時30分到着。すぐに小屋に向けて進む。小屋は主稜線から東にのびている屋根上にあるが、10分ほどくだと着いた。すでに18時半を回っており、食事のことなどを考えるとやはり2時間早く着いておくべきであろう。小屋は小さいので、先客が三人ほどいたが四人で寝るには十分なスペースだった。ただ、夜中にネズミが宿泊者の食料目当てに出てきたのはまいった。夜中にトイレで外に出て伊那谷方面を眺めてみると、町灯りがすっきりと見え、その上に雲が薄く横たわっている。さらにその上には南アルプスのシルエットがくっきりと見えて幻想的だった。苦勞してここまでたどり着いたのが、やっと報われた気がした。

翌日は快晴で、南アルプスから富士山に至る稜線がくっきりと見える。簡単に制敵を済ませ、6時40分に小屋を発つ。松尾岳山頂に6時57分着。山頂からは、きょうのメインの空木岳がすっきりと見える。その端正な姿から、この山が百名

山の一つに挙げられているのも十分に納得できる。西には主稜線から外れているためか、訪れる人も少ない三ノ沢岳が朝日に輝いている。そしてその奥にはドスンと御嶽山が座っているが、膨大なこの独立峰には何かしら威厳のようなものが感じられる。

7時10分、山頂出発。きょうは快適なハイマツ帯の稜線歩きになりそうだ。大流山を過ぎ、熊沢岳8時05分到着。ふり返ればきのう歩いた松尾岳から宝剣岳、



中央アルプス主稜線より御嶽山

その左に中岳・駒ヶ岳もはっきりと見える。空木岳は益々その量感を増し、その右奥には赤穂岳、そして南駒ヶ岳がどっしりと座り、その存在感を示している。

東川岳には9時26分到着。いよいよ眼前に空木岳がそびえ立つ。ここからは鞍部の木曾駒越までいっただんぐだり、あとは標高差360mの急登を一気に登ることにする。木曾駒越で十分な休息をとる。

荷物は軽くなり楽にはなったが、かかとの靴ずれは両足とも直落4特大にめくれ、リンパ液で靴の中はグチャグチャな状態だ。靴ずれもひどくなるとこんなになるものだと思き、半ばあきれて感心してしまふほどである。とにかくあと半日我慢するしかない。

ザックを置いて少しくだった所で水を汲み、いよいよ空木岳に向けて出発。10時28分。黙々とひたすら登り高度をかき増す。今まで歩いてきた稜線が駒ヶ岳まで続いているのが見渡せる。よく歩いてきたものだとの感慨がわいてくる。

音間1時間、空木岳の山頂に立つことができた。東は伊那谷の町々がよく見え、少しガスがかかってきたものの、八ヶ岳から南アルプスの稜線が青空にくっきり

とラインを描いている。南方はここからだと少し低く見える赤穂岳、南駒ヶ岳とその間に顔を見せているのはさらに南の仙遊嶺だろうか。いつかは中央アルプス南部の縦走にも挑戦してみたいものだ。かかとの痛みは頂点に達し、もうマヒ状態だが、池山尾根を一度にくだることにしよう。(平成10年9月12・13日歩く)

○木曾駒ヶ岳・空木岳が日本百名山に選ばれているせいであろう、その間近の山小屋は少し詰めた状態だったそう。この時期、多くの山小屋が空いていることを思うと百名山への集中の弊害を感じる。

▲コースタイム▼

- 宮田高原(2時間) 黒川分岐(30分) うどんや峠(1時間) 一丁ヶ池(2時間)
 - 浄土乗越(15分) 宝剣岳(30分) 橋梁平(1時間30分) 濁沢大峠(1時間30分)
 - 松尾岳(1時間20分) 熊沢岳(1時間20分) 東川岳(20分) 木曾駒越(1時間30分) 空木岳(4時間30分) 駒ヶ根高原
- △地形図▽
2万5千II伊那宮田・木曾駒ヶ岳・空木岳・赤穂

セキオノコバへ

山本久雄

鈴鹿

青川溪谷沿いを上がり、銚子谷本流から上部の右岸第六支流に入り、ダイレクトにセキオノコバに至る。下山はクラの東、池の平手前あたりからガラシ谷へくだり、木にも成っている「水の噴き出している場所」をのぞく。標高600計あたりの「オマオヤシキ」を確認してガラシ谷右岸の壁を乗り越えて「下がり藤」の尾根をたどり、トンネルに出て戻る。山頂を目的としない非常に欲張ったハードコースである。昨秋、銚子谷本流を廻行して最低鞍部から縦走路にのり、遠足尾根から「ヤスミコバ」へダイレクトにおりたときに、次はこのコースを歩きたいと考えていた。

8時45分、青川溪谷の「ヤスミコバ」を出発。きょうの本流は先日の激しい降雨の名残か水量がけっこう多い。徒渉のたびに靴の中に水が浸み込んでくる。いくども徒渉を繰り返して銚子谷合流点まで45分まで到着する。銚子谷に入り、約10分で核心部入口の約3分の滝に出会う。通行が目的ではないので、ここから傾斜約60度を超える右岸の崖に取りつき、上のトラバース巻き道をめざす。魔力にたよる急登しばらくではっきりした抽道が現れた。しばらくたどるがすぐにトラバースするようになり、ゆるやかにトラバースするようになり、ゆるやかにトラバースと古い巻き道かも知れない。もう少し急登を続けると現在使われている「不動滝」



大カラト谷

のトラバースルートへとたどり着いた。この巻き道は急崖をトラバースするかなりハードなもので、安易な気持ちで取りつくとはやめたほうがよい。

きょうは我々の行く手に通過した足跡はなかった。谷におり着くとそこは「不動滝」の落ち口で、「ガラシ谷」が合流している。「ガラシ谷」は両岸の切れ込んだ崖状だが、川床自体はガラガラの岩屑で、上流の崩壊がしのばれる光景である。ここから約20分で「水谷」出合となる。10分程度の三段の連瀑を懸けて合流している、なかなか見応えのある谷である。

さて、いよいよ「雄流」の高捲きである。右岸のガラ場から取りつくと、直上したのち若干トラバースきみに流頭近づき、リッジと呼べるほどやや急傾斜



の岩壁根をたどり、登りすぎないように気をつけて、程よい場所から思いきって一気に川床へおろす。この高捲きも魔力にまかせ、木の根をたよりのかななりハードな高捲きとなるので、季節がよければ思いきって水に入り、水流をたどるほうが却って安全かも知れない。ひと思われて登りだすとすぐに「小カラト谷」であ

る。ここも見える範囲で三つの連瀑をかけ、存在を主張している。続いてすぐに右岸に大スラブが見える。高さ50計以上はあるだろうか、逆層の岩壁の上を水がしたたり落ち、黒光りしている。まことに迫力がある。

「雄流」から10分もかからない所に、気をつけていないと通り過ぎてしまいがちな谷が右岸に合流している。両岸はずっばりと切り立ち、奥の方に岩壁が立ちふさがっていて、いかにも何かありそうだな。幸いにも入り口のゴルジュの底は崩れた岩屑の積み重ねなので通過は簡単である。行けるところまで、と入ってみてびっくり、入り口のゴルジュを抜け、奥の岩壁の下に着くとそこは少し広くなっている。周囲をぐるりと岩壁が取り囲み、井戸の底のような地形であった。右岸奥に高さ15計も20計の直瀑があり、その上はV字形に深い切れ込みとなっている。その滝の落口に引つかかるようにのっかっているチロックストーンの影は、「鈴鹿の山と谷2」に写真が載っている「大カラト谷」であることを確認した。しかし本流を進行していると、この滝は見えない。昨秋、谷の順番がよく分からなかったの

はこのためだったのだ。ここはただの伏流と思っていたのだから……。続いて「クサビ谷」が華麗なナメ滝を見せて本流へなだれ落ちている。頭上はるかに光を反射させ、水流を踊らせて助けらうような姿を垣間見せるナメ滝まで、数段の直瀑とナメ滝が行く手をばはんでいる。近づいてよく見たいのだが、装飾と相談すれば即座に回答がでる。「ワン、きょうはこれぐらいにしとこうか。美しいものは、なかなか近づけないものだ。」

さらに本流を遡ると大カラト谷から約20分30分で第六支流出合に到着する。ここも入り口から一気に崩れあがり、何段も連瀑を懸けてかけ上がっている。地形図で確認するとセキオノコバへ上がれそうだな。よしよし。ここを登ろうか。その前に腹ごしらえをしよう。

昼食後、いよいよ左岸の岩壁を木の根っこを頼りに、捲いているような直登しているような強烈な壁を腕力まかせの登りとなる。この先二段となるが水流を被切れないので自然と右岸に入っていく。入り口から見えていた60計近くを登り終えてもまだまだ滝の流れは続き、右岸の最後は10計ぐらいの直瀑となっている。

近江百山

関西の山日帰り縦走

近江百山之金 編著 日5判・二五〇〇円

中庄谷 直著 四六判・二〇〇〇円

歴史ある御山から入道まれな原野の山まで
琵琶湖を曲む滋賀県の山から御名山選定//
各山見開き2頁に登山紀行と大写真した山
姿、登山コース地図、所要時間などを掲載。

六甲、多紀、京都北山、比良、湖北、生
駒、葛城、金剛、和泉、全48コース。
一日で縦走できるコースを厳選して詳細
地図付で紹介。交通機関や所要時間も。

★表示の価格は消費税を含みません
ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 ㊟605-8316

全長では1200〜1500付近のナメ滝
になるのだろう。ヘトヘトになってこの
長い滝状を捲き登り終えると、水はいっ
たん伏流となり視界から消えるが、少し
登ると二俣となり左俣には水流がある。
水に誘われて左俣を登るとまたまた滝状
となっていて谷底なく右岸をへつってゆ
くことになる。しばらくで滝状は終わっ
てもけぐらいのガケに突き当たり、水流
は消える。そこは川底から水がゴボゴ
と音を立てて噴出していて、なかなか見
応えのある光景となっていた。本流を離
れてから約40分、標高は約900付近ぐら
いの地点と推測する。

ここから上部は少し勾配もゆるくなり、
かろうじて人間らしく二足歩行が可能と
なる。急斜面の所どころは水平になって

アノスクリームの表面をスプーンで削り
取ったようなゆるい窪みが走り、不思議
な光景のなかをゆく。第六支流入口から
1時間20分でセキノコバの池に飛び出
してホッとひと息入れる。

今日はまだまだ苦労が続くので長居は
無用だ。疲れた体をいたわりながら「ク
ラ」の頂上をめざしてきつり登りの縦走
路をたどる。電ヶ岳を横目に見ながら遠
足尾根のハイキングルートをとる。1
042付近ピークの急斜面を過ぎ、次のピー
クこの鞍部あたりのホタカ谷源頭部で、
ハイキングルートと分かれササヤがへ飛
び込む。ササの切れるあたりがめざす
「ガラン谷右戻」の源頭である。このあ
たりからトラパス気味に高度を下げな
がらほげ真北にのびる右俣と左俣との間

の尾根をめざす。
ヌク場を通り過ぎ地形図では判断でき
ない小さな枝谷を幾つか横切る。そのな
かの一つに、高度850付近あたりの水平
部分から水が噴き出ている小さな谷を横
切る。これが本に記載されていた場所な
のかどうか分らないが、高度からいっ
てたぶん間違いないだろう。しかし水
量は先ほどの第六支流の谷の源流部の噴
出量のほうが多くて少しがっかりした。
でもいったい何人がこの光景を見たのだ
ろうか。これからはずっと同じようにチ
ロチョコロと悠久の音を立てて流れ続ける
のであろう。

このあたりから尾根をたどりさらに下
をめざす。次の目的地は「オマキヤシキ」
と呼ばれている高度600付近の二俣

の出合である。ほとんどくさり出合が近
づくにつれ、左俣は兩岸とも激しく削り
取られて谷底へは近づけない。右俣へお
りられそうなのでそちらをたどる。この
あたりでは両俣とも伏流となつている。
おり立った出合でそれらしき跡を探すが
よく分からない。こんな急斜面では人が
住むのは無理かも知れない、やはり伝説
にすぎないのだとあきらめて休憩する。



オマキヤシキ

しかし、斜面のなだらかな部分に腰を
下ろして何げなくあたりを見ると、あき
らかに人為的な石組が見られる。斜面が
崩れていて土砂がおおっているが、小さ
な袖屋なら十分な広さである。さらに周
辺を詳しく調べるに懐焼き窯ではなく、
何か作業をしていたと見られる跡もある。
鉄製の破片も見つかる。その曲がり具合
からすると、直径は1メートル以内のかなり
大きな鍋と思われる。間違いないここに
はだれかが生活をしていただ。ここに
住んでいたのは、伝説の金を探していた
女山師「おまさ」さんだろうか？ この
山深い場所では盗賊がきたらどうしたのだ
ろう？ 精錬した金を懐にどんな思いで
山を下りたのだろうか？ あの鑄子谷の捲
き道をたどったのか？ それとも尾根を
乗越すルートがあったのか？ 食べ物は
どうしたのだろうか？ 気又な女山師「お
まさ」さんは笑入だったのかな？ それ
とも……先ほどの場所で精錬していた
のだろうか？ ここでふと思いついたの
が、「湯の谷」は今まで「湯」＝「湯屋」
と考えていたが、精錬して溶けた金塊の
ことを「湯」とも言うはず。もしそうな
らば「湯の谷」とは比較的大きな精錬所
のあった谷のことかな？ そう言えばあ
の人為的な石組のつくりは……ひとりで
よがりの想像がどんどん膨らんでゆく。
さて、この先尾根への登り返しが最後

の難関だろう、と予調していたが、まさ
しくその通りで、トンネルへ続く尾根へ
はまたまた腕力まかせの急斜面の登りと
なる。木の根っこに体をあずけながら落
石と喧嘩を繰り返して、上へ上へとよじ登
る。この右岸の急斜面を登りきり、尾根
に立つと尾根の上はわりあい歩きやすく
「オマキヤシキ」から約40分で治田峠へ
のハイキングルートの下流側トンネル入
口へおり立つ。ぐったりと疲れ果てて車
へは16時30分過ぎに到着。8時間におわ
る山頂を目的としない山旅は終わった。
なおこのルートは大変危険を伴うので、
安易な気持ちでは取りつかないように。
(平成10年4月5日歩く)

△コースタイム▽
岩川溪谷ヤスミコバ (8時45分発) (45
分) 鑄子谷出合 (30分) ガラン谷出合
(20分) 大カラト谷出合 (30分) 第六支
流出合 (1時間20分) セキノコバ (30
分) クラ (10分) ホタカ谷源頭 (30分)
オマキヤシキ (40分) トンネル入口 (30
分) ヤスミコバ (16時30分着)
△地形図▽と万五千1巻ヶ谷
昭文社「雲仙・伊吹・藤原」

和歌の浦海岸の道

北紀

木村 太郎

名草山から片男波海岸

紀三井寺から名草山へ向かう。ほどなく広原と吉原に通じる道が合流した一本松の分岐に出る。雅やかな趣のある竹林を抜けると、眺望広がる名草山(229.4m)の頂に着く。この名草山は恋の悲しみが晴れないことを、山の無情に託して『万葉集』に詠まれた山である。わが恋の千に一つも慰めてくれないで、名草山とは名ばかりだったという風に。
名草山言にしありけり我が恋ふる
千重の一重も慰めなくに

北東に和泉山脈、北西には長峰山脈が



和歌の浦海岸付近地図

が目についた。いつの日にか桜花爛漫の山上にする目論見なのだろう。眺望を楽しんだ後は、名草山の中腹に伽藍を構える紀三井寺へ向かう。来た道を一本松の分岐まで戻り、参詣道と記された案内板に誘導されて山道をたどると、本堂の裏手に行き着く。
近畿に春を知らせる紀三井寺の彼岸桜も、まだ蕾を開かせていない。西国観音霊場第二番札所として、桜の季節の賑いを思い浮かべながら、国宝の山門を出て

望まれ、前面には雄大な海景色が視界に飛び込んでくる。和歌の浦はもとより浪三箇の岬、毛見沖にできた人工島和歌山マリナーシティまで、手に取るように眺められる。万葉時代まだ地形が変動する以前は、名草山の麓近くまで和歌の浦の波が打ち寄せていた。現在では和歌公園の史跡とされ、玉津島神社周辺の玉津島山と呼称されている小丘も、当時は浦内の小島であったという。
往時に思いを馳せて、朝の陽にきらめいている和歌の浦、さらには春がすみに沈む沖合はるかにまで視線を送る。遠方は曇絵ばかりのペールに包まれ、淡路島の島影や四国の陸影は見えなかった。雄

紀三井山護国院を渡にする。

きょうは『万葉集』歌枕の地である和歌の浦を歩くことが目的である。名草山より雅賀岡まで気軽に歩きたくて、ジーンズとスニーカーで山かけて来た。登山ではなく、海岸通りの散歩である。待ち望んでいた紀伊路の春を和歌の浦の河口へ歩を進め、和歌川に架かる鳩橋を越える。すぐに海岸沿いの道を見つけて、海辺の早春の景色を満喫して歩いて行く。
万葉に詠まれた玉津島山の一つ妹背山が左手に見え、中国杭州の西湖に架かる六橋を模したという三新橋を渡る。妹背山の小島には観海園と名がついた。紀州徳川家初代藩主徳川頼宣が建てた望屋があった。名草山に昇る名月を愛でる宴席と、紀三井寺を巡拝するために建造されたものらしい。

妹背山の眼下には、和歌の浦の干潟が広がっている。白い海鳥の群れが優雅に空中へ舞い上がり、海上へ舞い降り一層の絵画を描く。万葉のころには鶴が飛来したこの地に鶴の化身のように訪れて、海鳥は北へ帰るまでの短い季節、その羽根を休めているのだろう。
石の浦に潮南ち来れば海をなみ

玉津島神社に建つ山部赤人歌碑



大な和歌の浦の風景を見てみると、美しい景色を包んで持ち帰りたいと、旅の空で感動して歌を詠んだ、万葉歌人の歌どころがわかるような気持ちになった。
玉津島見れども飽かずいかにして
包み持ち行かむ見ぬ人のため

ここ名草山の草原状の広場になっている頂上に、桜の若木が植樹されているの

津辺をさして鶴鳴き渡る

聖武天皇が紀伊国和歌の浦に行幸した時、随行した山部赤人が詠んだ、長歌につづく反歌二首の中、世にあまねく知られた短歌の一首である。聖武天皇は行幸の折に、「弱浜」というこの地の名を「明光浦」(若の浦)と改めさせた。さらにこの景勝地が荒れ果てぬよう玉津島の神をまつらせたという。兩國和歌の浦の陽光溢れる風景は、天皇の詔を導いて臣下赤人の絶唱を生んだのであった。
赤人の表現した「海をなみ」が「片男波」と誤読されて、片男波海岸の名が生まれた。徳川治三が造らせた、アーチ式石橋の不老橋を越えて南へとくだる。波打ち際の斜面に石を敷きつめて人工の渚に見せた気持ちよい遊歩道を通り、片男波海岸へ廻る。和歌公園片男波のシンボル・ゾーンとして、片男波は公園に整地されていた。園内にはドーム型の万葉館があり、紀伊万葉に取材した短編映画が上映されている。公園の奥には万葉の小路が造られて、万葉歌碑をめぐる散策を楽しめる場所になっている。

石の浦に潮南ち来れば海をなみ

拾へど妹は恋られなくに
(巻七 一三二七五)

玉津島から雑賀崎海岸
山部赤人の歌碑は不老翁前の玉津島神社の拝殿脇に建っている。玉津島讃歌というべき赤人の長歌と短歌を、双子石に大養孝氏が御筆した歌碑である。

玉津島神社の御祭神は、聖武天皇の勅命により祀られた明光浦(あきらうら)である。允恭天皇妃であった衣通姫(いとおほりひめ)も合祀されている。衣を通して光り輝く麗しさと、和歌の道に秀でていた衣通姫の伝承は世に知られている。衣通姫の「立ちかえり」またもこの世に跡重れむその名うれしき和歌の浦波(うらなみ)の一首が、光孝天皇の気持ちを動かし玉津島にまつられたのである。かくして玉津島には、摂津の住吉大神、明石の楠本大神とともに、和歌三神の一社として、朝廷からも民衆からも崇敬されてきた。

神社の裏手、眺めの良い筑紫山には望海楼(ぞうかいろう)が建てられている。称徳天皇の玉津島行幸の故事については「続日本紀」に詳しい。両氏の望海楼に御して雑菓を奏したという、古き旅の記録が碑名の由来になった。



天満宮の石段を登り潮騒の道へ

去情も変わり始めた。山端に立ち、歩いてきた片男波海岸の方を眺めてみる。海が真二つに割れてできた道のように、片男波の砂州が細長く遠くへのびて光って見える。
潮満たばいかにせむとか海伴の
神が手渡る海人娘(うらなみ)子ども
(巻七 一三二七六)

潮が引き不戻な神の手のように見える砂州で、時を忘れ磯遊びをしている娘たちがいる。早く戻っておいで、潮が訪

来になつている。山上からは今歩いてきた片男波のたまたまいが俯瞰できる。その片男波の延長線上に紀伊の山々が横たわっている。長き山脈の一角に、有間皇子の悲恋の舞台となった、藤代の磯が薄淡く浮かんでいた。
玉津島見てし長けくも表はなし
都に行きて恋ひまく思へば
(巻七 一三二七七)

玉津島の景色が良すぎるために私は楽しめません。都へ帰ればもう一度見たいと恋しく思うでしょう。万葉に詠まれた玉津島への恋の告白は、筑紫山に立ち、今眺めているこの風景かも知れない、と思えた。

海と別れて、玉津島神社の前を流れる市町川の縁水に沿って西へ歩けば、紀州東照宮に行き着く。さらに御手洗池の緑地を抜けると、和歌浦天満宮の清閑の梅花が迎えてくれた。ここから「和歌の浦」潮騒の道」と名付けられたハイキングコースを、天満神社の建座する天神山より高津子山へと歩く。

高津子山の山上はブルドーザーが入り造成中で、新しい展望台も未完成である。コープウェイが撤去されて新和歌の浦のちてきたらどうするのですか。心配顔で呼びかけているが、歌の調べは南国の陽光に染まり躍動的である。

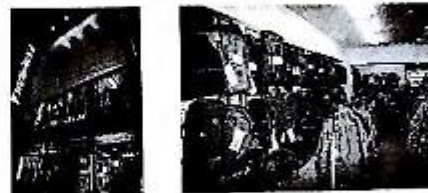
高津子山から海へ眺むむかのように、両手を広げて坂道を駆け下り、ふたたび海の道へと戻る。新和歌遊園、田の浦漁港、浪早崎海岸、奥和歌大橋、雑賀崎漁港とたどる海沿いの道は明るい。夏のシーズンなら、水着一枚ザックに詰めて来れば、片男波や浪早崎のビーチで泳げるだろう。そんなことを考えて、足早やに雑賀崎の灯台をめざして歩いた。雑賀崎の漁港を抜けて、坂道の上に寄り付いて建つ家と家の間を振り抜けて登って行く。

雑賀崎灯台からの海岸の眺めもすばらしいものだ。夏石断崖は落石工事中とかで行けなかったが、三徳年前の緑泥片岩を目にできる特有な海岸である。大島、中ノ島、双子島、そして養所庭園のある番所の島の景色は指呼の間にある。この美しい雑賀崎沖を眺め立てるといふ計画に対し、「反対を叫んでいる」「雑賀崎の自然を守る会」の看板をあちこちで見かけた。同感である。

夕陽の沈みゆく海岸を見たいと思つた

低山登山~本格トレーニングまで、
登山用品のことなら
おまかせ下さい。

新ハイの全長道で遊に利用します。



とスキーのヨシミ

T 543-0054 大阪市天王寺区南瓦畑4-70
TEL 06(6772)7231

JR天王寺駅
北山出口右へ
歩道橋渡ってスグ



が、いつしか白亜の灯台のまわりは夕曇りとなり、希望はかなえられそうにない。雑賀浦を主題にした万葉の歌を、心残りの胸中に反響させつつ帰途につくことにした。

紀伊の國の雑賀の浦に出でみれば
海人の燈火波の聞ゆ見ゆ
(巻七 一三二七九)

平成11年3月4日歩く

- ▲コースタイム▼
- JR紀三井寺駅(40分) 名草山(30分)
- 紀三井寺(30分) 狭背山(10分) 万葉館(10分) 玉津島神社(15分) 東照宮(10分) 天西神社(30分) 高津子山(15分) 新和歌遊園(40分) 雑賀崎灯台(15分) 雑賀崎遊園バス停(バス30分) JR和歌山駅
- △地形図V2万5千II和歌山
- △問い合わせ先▼
- 和歌山市役所観光課 0734(32)0001
- 片男波公園内万葉館 0734(46)5553
- 和歌山バス本社 0734(45)9133

連載

比良を歩く ⑪

荒川峠から烏戸山・摺鉢山

秦 康 夫

比良山系に10000歩を超えるピークは14座あるが、その中で、最も登山者の訪れることの少ないのが摺鉢山だと思う。縦走路から外れているうえ、明瞭な登山道もないのでやむを得ないが、それだけに、他にはない静かな雰囲気味わえる山である。

JR志賀駅を出発。車の往來の激しい国道171号線に出て、琵琶湖側の歩道を5分ほど北に歩くと、頭上に荒川の地名表示がある。押しボタン信号で横断歩道を渡り、そのまますすく行けば満福寺という寺に突き当たり、ここで右に折れる。大きな太鼓のある寺だ。数年前このルートを通ったとき、左に曲がってそ

のまま行ってしまい、30分ほど時間をロスしたことがあった。山登りに来て、街中の道で迷うことはけっこう多い。寺を捲くように進むと広い林道に出合ふ。ここから小松製作所「比良山柱」の前を通り、簡易舗装された道が荒川峠の登り口まで続くのだが、この林道歩きは長かった。

送電線の下をくぐって、湖西道路、志賀インターに近づくとあたりから、道の両側にウルシやハゼの木が茂り、ベンシヨンのテニスコートなどもある。だから少し登り一方の林道で、いい加減うんざりし始めた頃、谷川のせせらぎが聞こえ始め、湯島神社の御神燈を過ぎると急に



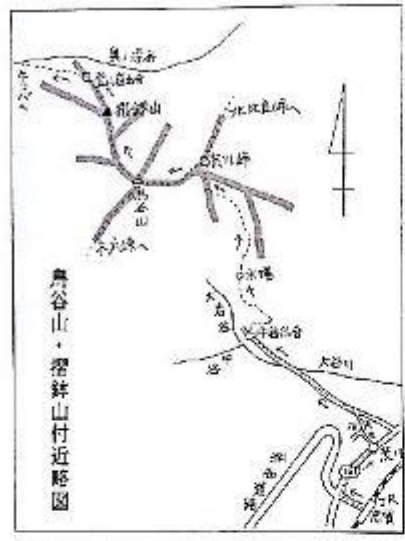
荒川峠

り、登山地図には中谷出合と記されている。10分ほど休憩。

山道に入る。完全な雑木帯で常緑広葉樹が多い。林道歩きから開放されて、やっと山を歩く爽快感になってきた。山を包む冷気のひんやりとした感触が心地よい。太い赤松が目立ち始め、東に向かっていった登山道はJターンして、深い谷を見下ろす高崖き道になる。左の谷は大岩谷。階層からスパッと切れて、上から見ると90度近い急傾斜で落ち込んでいる。しっかりと道ではあるが、うっかり踏み外せば、ひとたまりもない。山側に寄って

復原に通過する。雪のシーズンには歩きたくない道である。左の大岩谷方向におりて行く細い道があったが、沢登りのときにも使うのだろうか。

幹の白っぽい大木の橋を通り過ぎたあたりから、登山道は徐々に谷筋を離れて北に向かい、山裾深く入って行く。小さな沢に石の橋があるところを見ると、古くから峠越えの道があったようだ。登山口から大汗をかいて30分ほど登り、ちよどひと休みが欲しい頃、絶好の水場に恵まれた。大きな岩の下の砂地から、こんこんと湧水が湧き出ている。ここで



奥谷山・摺鉢山付近地図

小休止。冷たい水と、グレイプフルーツなどのおやつで生気を取り戻したが、まだ先は長い。しばらくは、薄暗い植林帯のなかの登りが続く。もちろん展望は全然ない。足元を見つめて黙々と歩くのみである。静寂を破る、ピーー！と鋭い鳥の鳴き声と、時おり現れる山の花だけが、わずかに気分を和ませてくれる。五角形をした

つり鐘型のかれんな花が目についた。よく見ると、花の内側にも五角形の紫色の線が走っている。花に詳しい女性に訊くと、「アヤソウ」というキキョウ科の花らしい。

途中二度休憩したが、水場から1時間ほどかかってやっと植林帯を抜け出し、峠のような所へ出てきた。荒川峠かと思っただが、これは主稜線から南東に派生する支尾根だった。ここからはなだらかな尾根道となり、薄いガスを通して、右に琵琶湖側の展望が開けてくる。間もなくリッパが現れ、10分弱で荒川峠に到着した。

小休止をとって、縦走路を両西に向かう。ここまでは登り一方の身息吐息だったが、登りがあれば下りもあるのが縦走路のありがたさ、とは言え、この登りはけっこうしんどい。縦走路の脇に展望の良い小さな小広場があり、ここで大休止。きょうは比較向少人数の8名なので、場所の確保に苦労しなくて済むのが助かる。

本来は、頭上に赤トンボが飛び交い、眼下には琵琶湖方面の大展望が望めるはずだったが、あいにくのガスで視界はほとんどゼロ。下界から、とんとん湧き上

山と高原地図シリーズ

定価750円(税込)

1 利尻・蘭丸 制定・阿蘇(刊 行予定)	25 白根岳(北アルプス)
2 ニセコ・千歳山	26 黒岳・雲取山(北アルプス)
3 大雪山・千歳山	27 駒ヶ岳(北アルプス)
4 十和田湖(平野)・老木山	28 奥の細道(北アルプス)
5 八幡平(平野)・新倉山	29 奥の細道(北アルプス)
6 奥の細道	30 奥の細道
7 奥の細道	31 奥の細道
8 奥の細道	32 奥の細道
9 奥の細道	33 奥の細道
10 奥の細道	34 奥の細道
11 奥の細道	35 奥の細道
12 奥の細道	36 奥の細道
13 奥の細道	37 奥の細道
14 奥の細道	38 奥の細道
15 奥の細道	39 奥の細道
16 奥の細道	40 奥の細道
17 奥の細道	41 奥の細道
18 奥の細道	42 奥の細道
19 奥の細道	43 奥の細道
20 奥の細道	44 奥の細道
21 奥の細道	45 奥の細道
22 奥の細道	46 奥の細道
23 奥の細道	47 奥の細道
24 奥の細道	48 奥の細道
25 奥の細道	49 奥の細道
26 奥の細道	50 奥の細道
27 奥の細道	51 奥の細道
28 奥の細道	52 奥の細道
29 奥の細道	53 奥の細道
30 奥の細道	54 奥の細道
31 奥の細道	55 奥の細道
32 奥の細道	56 奥の細道
33 奥の細道	57 奥の細道
34 奥の細道	58 奥の細道
35 奥の細道	59 奥の細道
36 奥の細道	60 奥の細道
37 奥の細道	61 奥の細道
38 奥の細道	62 奥の細道
39 奥の細道	63 奥の細道
40 奥の細道	64 奥の細道
41 奥の細道	65 奥の細道
42 奥の細道	66 奥の細道
43 奥の細道	67 奥の細道
44 奥の細道	68 奥の細道
45 奥の細道	69 奥の細道
46 奥の細道	70 奥の細道
47 奥の細道	71 奥の細道
48 奥の細道	72 奥の細道
49 奥の細道	73 奥の細道
50 奥の細道	74 奥の細道
51 奥の細道	75 奥の細道
52 奥の細道	76 奥の細道
53 奥の細道	77 奥の細道
54 奥の細道	78 奥の細道
55 奥の細道	79 奥の細道
56 奥の細道	80 奥の細道
57 奥の細道	81 奥の細道
58 奥の細道	82 奥の細道
59 奥の細道	83 奥の細道
60 奥の細道	84 奥の細道
61 奥の細道	85 奥の細道
62 奥の細道	86 奥の細道
63 奥の細道	87 奥の細道
64 奥の細道	88 奥の細道
65 奥の細道	89 奥の細道
66 奥の細道	90 奥の細道
67 奥の細道	91 奥の細道
68 奥の細道	92 奥の細道
69 奥の細道	93 奥の細道
70 奥の細道	94 奥の細道
71 奥の細道	95 奥の細道
72 奥の細道	96 奥の細道
73 奥の細道	97 奥の細道
74 奥の細道	98 奥の細道
75 奥の細道	99 奥の細道
76 奥の細道	100 奥の細道

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行されます。この行の価格はなるべく最新版をご案内させていただきますよう苦慮いたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご購入・ご意見がございましたら、編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新巻情報をお送りいただけます。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3282)2141(代)〒102-8238
支社 大阪市淀川区西中島8-11-23
電話06(6303)5721(代)〒532-0011
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・新潟
金沢・静岡・名古屋・京都・広島・福岡

がってくるダイナミックな動きと、あたりを囲むツルリンドウを眺めながらゆっくり昼食をとった。
午後、15分ほど急坂を登ると、登り着いた所に「鳥谷山」と書かれた案内板がある。縦走路から、案内板の左の細い道を1、2分登ると頂上に出た。1075mの3等三角点があるが、立木に囲まれた狭い場所で見望も良くない。
いよいよここからが、本日のハイライト・コースである。山頂から北西にのびる尾根を、摺鉢山に向かってくだる。始めから道はなく、いきなりブッシュに突っ

込むが、疎林帯なのでブッシュといってもそれほど苦労することはない。ただ少しやっかいなのは、シヤクナゲの密生地帯だ。横に寝るようにのびている枝を踏みつけて乗り越えたり、手でかき分けたり、尾根を外さぬように注意しながら、慎重に進む。
尾根の左に杉の植林が現れ、雑木林との境界をなすように伐採されている。雑木やクマザサを鎌で刈った跡が鋭い切り口になっており要注意。左植林、右雑木林の境界線は、ずっと西の方へくっついてるので、うっかりこれに沿って行くと、

白滝谷の方へおりてしまう。尾根はやや北に方向を変えて植林帯を離れ、両サイドとも自然林になってきた。映画のタイトルではないが、「北北西に進路をとれ」とかけ声をかけて、忠実に尾根筋をたどる。疎かな木立を透かして右手には堂満岳と、マイククロウエーブのあるカラ岳が見える。
ゆるやかな下り一方だった尾根が膝節を過ぎて登りに転じ、すぐ小ピークに着く。ここが摺鉢山。営林公社0773と書いた石柱が立っている。標識も何もないが、その名の通りスリパチを逆さにした



疎林帯のなかの摺鉢山の頂上にて

るはずだ。西方向に行くと登山道までの距離が長くなる。だだっ広い尾根なので、尾根の中心がやや分かりにくい。数ヶ月前に来たとき付けておいた目印の白い布が、所どころ木の枝にぶら下がっている。目印としては赤が一番目立つが、途中で赤い布がなくなってしまうので、やむを得ずハンカチをちぎってテープ代わりにしたものだ。横に大きな根の木が立っている。動物のヌタ場らしき所で休憩。
道がないので、どこを歩いてよい。それぞれ自分勝手に、歩きやすそうなコースを選んでどんどんくだる。整備された登山道もありありがたいが、こういう山歩きもなかなか楽しいものだ。谷の瀬音が聞こえてきた。と、思ったら雨の音だった。雨が木の葉にあたる音だ。木が繁っている。下までは落ちてこない。
最後はやや急な下りになったが、摺鉢山から約45分かかって、やっと牛コバから来る登山道に出た。あとは、つづら折のジグザグ道を西にくだればよい。雨の音に負けて聞こえなかった瀬音が、歩路を挽回するように高まってきて、牛コバに降り着いた。40分ほど林道を歩いて坊



クマザサ

村バス停へ。
きょうのコース、前半の登りはきつかったが、後半、鳥谷山から摺鉢山を経て奥の深谷道までは、ちょっととしたルート・ファインディングのスリルもあり、野趣に富んだ愉快な尾根下りだった。
(京都北山グループ例会、平成10年9月6日歩く)
▲コースタイム▼
「R志賀駅(50分) 荒川峠登山口・中谷山合(30分) 水場(1時間) 荒川峠(25分) 鳥谷山(30分) 摺鉢山(45分) 奥の深谷道・登山道(20分) 牛コバ(40分) 坊村バス停
△地形図▼
2万5千 比良山・花背
昭文社「比良山系」
山と峡谷社「比良・北山東部」

1等三角点峰(500m以上) 548座完全登の記録(第14回)

北アの諸峰と東北の山旅

坂井久光

昭和62年7月31日、列車で富山へ行き、カプセルホテルで一泊。8月1日、折立行きバスで入山。太郎山を越えて薬師沢小屋で泊まる。2日、雲ノ平から高天原へ。久しぶりに露天風呂に入る。昔、京交の守山石等と来た時とはかなり変わって、女性風呂は谷川の対岸にあり、板で囲ってあった。下記の新婦夫婦に写真を撮りたいと頼まれ、水巻の新婦といっしょに入浴姿を撮った。話を聞くと、「二等三角点研究会」会員の石黒氏と知り合いだ。露天風呂からは水晶岳がすぐ近くにそびえているのが見えた。

3日、水原岳(2986m)に登り、次に野口五郎岳(2994m・2等)に登って野口五郎小屋で泊まった。4日、三ツ岳を登ってブナ立尾根の急坂をくだり、七倉温泉に入浴してタクシーで大町駅へ出た。大米饅で根知駅へ行き、梶山新湯へ入って泊まった。ここは明文堂の経営で、よい出で湯だった。

5日は雨だったが百名山の雨飾山(1965m)へ。強風と急登に悩まされながらも登頂できた。東西二峰に分かれ石仏があった。小倉温泉に下山したが、センターは職員だったので温泉で泊まった。親切な旅館で濡れた衣服一切を乾かしてくれた。6日、バスで中土駅へ出て、糸魚川駅へ。北陸線に乗り換えて北上し、村上駅前の旅館で泊まった。7日、鶴岡

十二山神のある子持山の1等三角点



駅で下車し、バスで大島まで、そしてマイクロバスで泡盛発電所へ。大島池に向かって出発。大島池小屋で泊まり、8日、以東岳(1771m)へ登った。山頂付近はニッコウスギゲ・ヒメサユリ・マツムシソウの群落があり、前方に大明日岳(1870m)がそびえている。ひと休みして寒江山(1695m)を通過し、大朝日小屋で泊まった。9日、百名山の大朝

日岳(2等三角点)を登って朝日温泉に下山した。新築の朝日グリーンピア温泉経由のバスで宮宿に出て乗り換えて山形駅へ行き、白河まで戻った。ビジネスホテルで一泊して翌10日帰京した。

昭和62年の「二等三角点研究会」の秋の例会は越後駒ヶ岳(2003m)と決まった。10月10日、上越線小山駅前の川善旅館に集まり、翌11日の早朝出発した。折折峠は駒ヶ湯からの道が合流する所で小祠があった。付近に3等三角点があり、次いで小倉山を越えて「百草の池」という温泉を通過して、ここから急登になった。山小屋でひと休して山頂へ登った。360度の大展望に恵まれ、八海山や中ノ岳・平ヶ岳・越ヶ岳等が見えた。その日は登山平の岳の助とノッテに泊まり、翌日平ヶ岳をめざしたが、雨になったので、翌年の楽しみにとっておいて小出駅を經由して帰京した。

同年11月3日、東北の山旅に出発した。東京から福島線由奥羽本線で橋手駅下車。バスで六郷町へ行き旅館で一泊。5日タクシーで黒森山(763m)登山口の橋手温泉道の時の手前まで入った。黄蘗の樹林が美しい急坂を登りつめると山頂

で、小祠の黒森神社があり、傍らに1等三角点があった。展望良好で橋手盆地、奥山山麓や大平山などの秋田の山々が見え、近くに御岳山(744m)があった。小憩後、道端の秋タミの実を味わって御岳山にも登った。山頂には垣津彦神社があった。長い石段をくだると水場のある林道終点に出て、沢を通過して橋手へ下山した。このあたりは昔大和朝廷時代の金沢の柵のあった所である。列車で大曲駅から秋田駅へ行き、乗り換えて羽越線の仁賀保駅へ行った。タクシーで仁賀保駅へ行き、小関山(516m)へ向かったが、突然暴風雨となったので牧場へ逃げ込んだ。それも10分程度でおさまり、ピークへ登って1等三角点を探したが見当たらなかった。今西博士も判らなかつたのか。後で秋田の橋田さん(秋田大・会長・JACC会長)に尋ねたら、道程から10m位の牧場内の木箱の中にあつたとのこと。その後、本荘駅に出て旅館で一泊した。翌6日羽後岩谷駅へ行き、南東北の黒森山(695m)へ。峠を越して赤田の大仏前を通り、大滝登山口の東光山の山道をたどった。丁目石があり、三合目に清水、五合目に里沙阿堂があった。山の上に

小屋があつたが閉まっていた。黄蘗に切り開きがあり、急坂をくだってやが道を登ると黒森山の山頂で、1等三角点があつたが、天候が悪く展望は良くなかつた。下山すると時雨模様になり、秋田に行きホワイホテルで泊まった。

橋田さんに電話したら、明後日東京新ハイの連山を案内して森吉山へ行くとのこと。「私はあす太平山へ行く」と言うのと、「あすは午後休みなので14時頃に登山口へ迎えに行く」との返事だった。友人とはありがたいものだ。翌7日、朝早くタクシーで旭又キャンプ場まで行き、ブナやミズナラの紅葉のなかに渓流を渡り、コリトリバや御手洗清水を経て登った。大平山山頂(1771m)は積雪10cm程で山頂小屋あり、ガスがかかり展望はなかつた。晴天なら360度の大展望だろう。

小憩後往路を下山したが、まだ12時頃だった。橋田さんに電話をしたら、下山が早いのに驚いて翌日に迎えに行くとの返事。合流して車で森吉山麓の民泊「山麓荘」へ行き、ここで新ハイのメンバー10人と会い、あいさつして夕食宴会となった。合同登山になるとは予想外だった。

翌8日、車三台で登山口の「こめつが山荘」へ。雨は止んだが、道がスキー場建設のため掘りこで、雪も10〜20cm程。一の腰の三角点に出てひと休みした。いっただんくだった。温泉や小屋を通り、ガスのなかに登って雄風の森吉山山頂(1450m)に着いた。風も強く、新ハイ祖は列車の都合もあるので休憩後すぐ下山した。登山口で新ハイ一行と別れ、福田夫妻と柏原泉で入浴し、昼食をとった。

翌9日は奥さんが休みなので角地の武家屋敷を見物後、秋田駒へ。道路が凍結しており七合目半に駐車して登った。1寺三角点の女日岳(1637m)に登頂し、二人で万歳三唱して展望を楽しんでかた下山した。車で乳頭温泉郷の鶴の湯へ。JAC会員の佐藤氏の経営で、今西博士もお気に入り、三度も来られたとか。名湯として名高く、白湯・黒湯、露天風呂もあり、水車による自家発電所があった。昔本陣のあった由緒あるひなびた山で湯の旅館であった。

翌10日、主人の車で田沢湖駅まで送ってもらい、秋田駅から男鹿半島の男鹿温泉へ。

翌11日、民宿の車で本山(716m)

登山口の真山神社まで送ってもらった。仁王門をくぐると本殿で、その裏から登山道があった。神仏混淆の神社だった。自衛隊に電話で入山許可を願ったが駄目だった。しかし、キャンプ場の急登を登って山頂へ着き、仕方なく裏へ廻って築垣から覗いたが点検らしいものは確認できなかった。しばらく休憩して羽立駅へ向かって下山。12日に飯沼村で泊った。

昭和33年4月22日、「一等三角点研究会」例会の高田山へ出発した。前日に近くの子持山(1296m)に登るため、高崎線沼田駅近くの朝日旅館で泊まった。23日、タクシーで開拓地の牧場へ行き林道をたどる。支尾根を登って雑木の急坂を経て前山のピークに立ち、登降を繰り返して十二山神碑の立つ山頂へ着いた。岩上に立つと、赤城山・谷川岳・榛名山・高田山など360度の大展望に恵まれ快哉を叫んだ。休憩後、小峠コースをとって下山した。中之条駅へ出て沢渡温泉の言田温泉へ着き、会員一同と合流した。

24日、三台の車で高田山へ出発。上反下から四万温泉への林道を行ってわらび峠で駐車。歩き始めは長い道だったが、山頂付近は急峻なやせ根で危険な所も

あった。注意して歩き、山頂(1212m)へ到着できた。展望良好で浅間山や上越の山々が眺められた。一同少くも休憩して下山後解散した。私は四万温泉へ行って、入浴後大宮へ出て夜行で秋田へ向かった。福田氏に電話し、昨年の礼を述べ釈で夫人とお会いして、おみやげを渡し、鎌倉から鉄道で阿仁合へ。25日、役場でJAC加賀谷氏と会い婿岳の地図を頂き、車で吉田農村公園へ。登るにつれ雪が深くなり、山頂付近は1km程の残雪があった。651mの1等標石は埋まっていた。石碑や小祠があり小憩後下山。翌26日、角地から湯澤温泉へ行き一泊した。27日、兄畑駅で下車。長い林道を歩き高倉山(1051m)へ。残雪もあったが、所どころネマガリゲケも出ており、山頂は北と東側が開けていた。

翌28日車で林道終点まで行き、四角岳を望みながらイヌツゲやササのやぶを漕いで中岳(1024m)へ登頂した。山頂には標石と天明三年の石祠があった。

29日、山形へ行き、斎藤氏を訪ね、白川ダム奥の渡辺翁宅で一泊。翌日は雨だった。5月1日、朝の峰を経て飯森山(1595m)に登った。(次へつづく)

宇陀の山を歩く

山口から竜門岳登山

コースとコースタイム(単位は分)
 近江大和土市駅(バス25分) 山口バス停(6分) ①山口神社(30分) ②竜門寺・竜門寺跡(30分) ③竜門寺(30分) ④三ツ峠(50分) ⑤大峠(30分) ⑥八幡神社(20分) ⑦木助滝(大動滝バス停)(バス20分) ⑧ 近江鉄道車庫(徒歩約15分)

① 吉野山口・高鋒神社(吉野町山口)
 大和上市駅9時30分発の敷少ない三茶屋の笛吹行きバスは5分まで山口に着く。山口は中世の竜門寺の荘園。竜門寺庄二十一ヶ村で成立した竜門村の一大字で、和歌山街道(伊勢南街道)の通じる南部以外は、竜門岳までほとんど山城である。山口バス停まではとんど山城である。山の神社森に、式内社に比定される吉野山口神社と高鋒神社が鎮座する。二社を併せて竜門大宮と称し竜門郷二十一ヶ村の総社であった。竜門郷は興福寺支配の竜門郡が荘園化した竜門寺庄となった地域で、江戸時代は西半分の十五ヶ村は旗本三五〇〇石中坊氏領、東部六ヶ村は中

坊氏代官の幕府領や郡山藩領と変遷する。明治初年の二十一ヶ村は明治二十二年に竜門村となり、その後、上竜門・中竜門・竜門の三村に分れる。明治の神仏分離で竜門寺別当寺の大宮寺は廃寺となり、大山祇神をまつる山口神社は分霊後の竜門村の村社。高皇産靈・神皇産靈神をまつる高鋒神社は郷社と指定される。現在の山口・高鋒神社は竜門郷の十五の大字が離脱し、六つの大字五〇〇〇戸が率着している。

山口神社は三町二段余の境内地と、寛文十一年(1671)造営の春日造の本殿がある。正面大鳥居も室町末期の天正十二年(1584)建立で、中世から書

中村敏文

原道真を祭祀していた証拠として手水鉢に天誦宮と延宝七年(1675)の銘がある。拝殿前には二基の立派な石灯籠は徳川吉宗將軍の寄進で、境内のツルマンリョウの群落は県の天然記念物に指定されている。

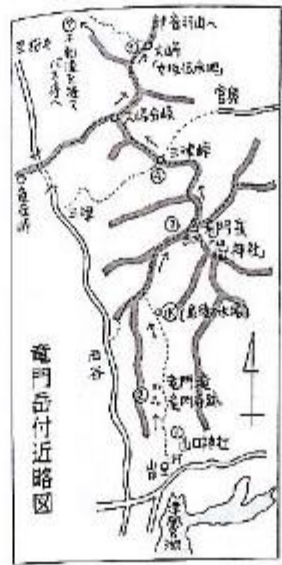
高鋒神社はもと高龍門山頂に祭祀された社だが、室町時代に一色氏が竜門岳に山城を築いた際に山口の稻荷社境内へ移され、その後、現在地に遷座して吉野山口神社、河原原の大宅持神社ともに竜門郷域の総社となった。現在の本殿は戦後に建てられた春日造である。石灯籠には文徳三年(1593)次郎四郎寄進銘がある。

② 竜門滝・竜門寺跡(山口)
 山口神社西側の狭い舗装路に立つ竜門山の看板のある所が竜門岳への登山口で、正面にそびえる竜門寺に向かつて登山道は田園地帯をまっすぐ北へびている。山口の集落を抜ける林道が杉林のなかに横川沿いのび、神社から2kmの左下に小さな竜門滝がかかっている。橋を渡れば竜門滝を中心に竜門寺らしい跡地もある。

現在、山口神社境内の眞實美神社は竜門滝上の台地から移した元の竜王社で、中世以降伝統的の雨乞い神事は竜門滝と竜王社を結んで行なわれていた。

竜門寺は奈良時代前期に創建され、室町時代に衰退した古代の大寺院で、寺礎を裏付ける確証はないが、僧義淵の開基という説もある。「三代実録」と「扶桑略記」の元慶四年(880)に見える諸大寺の一つとして、寺域の広大さや有名さはうかがえるが、現在の寺跡では伽藍配置は想像できない。「今昔物語集」の大伴・久米仙人などのような山僧が修業のために営んだ庵室が寺の始まりとするのを感ぜよう。

滝の上の七割四方の掘削平地の基壇の心礎は、四柱のない一本柱の塔跡と推定



竜門寺付近略図

され、付近一帯に大門・小門跡・薬師堂・新堂院谷・石塔谷・雲谷・六角堂地等の地名が残る。現存の山口の仏師院と延元四年(1340)跡の立跡のある竜華台院は竜門寺子院であったという。

③ 竜門岳(山口・西谷・柳の境界)

江戸時代に松尾芭蕉や本居宣長も立ち寄った竜門滝をあとに林道へ戻り、舗装路の杉林のなかを北へ登る。やがて雑木山となり細い山道と変わる。竜門滝から山頂まで2.5、1時間30分の登りという。山道はよく分かる沢筋伝いとなる。標高600mの登山道最後の水場から雑木の尾根道となり、展望もなく登りにくい石コロのジグザグ道が続く。山仕事のための道が分岐するが尾根道を忠実に進むと、

滝から1時間半で津田川湖が展望できる竜門岳の洞に着く。いきなり前方に丸い丘が見えて道は平坦になり、この丘を過ぎ込むように登りつめると山頂へ着く。山頂の樹木に囲まれた20平方メートルの平地は宮神

社の旧鎮座地で、標高904メートルの一角点と高皇産靈神をまつる御神社の小祠がある。天地創造のとき高天原に最初に出現したのが天之御主神・高皇産靈神・神皇産靈神の造化三神、万物の生成を担当したのが高皇產靈・神皇產靈で、男女の神として崇敬されてきた。山頂は北方だけが開け大和三山を含めた大和盆地が展望できるが、南方の吉野の連山や東西の山々は見られない。

④ 三津峠(吉野町大字三津)

竜門岳の北西へ30分の三津峠へ行くには、御神社の裏手からの登山は急斜面を尾根道へくだる。尾根道はクマザサが生い茂り道を塞ぐ所もあるが踏み跡はしっかりしている。杉の混じる雑木林で展望は良くないが、東から西へ廻り込むように行くと三津峠へ着く。峠から左へ行くと三津へ、右へくたると大宇陀町宮奥へ

通じる。

三津峠から西北へ1.5キロの大峠分岐へは展望のない山腹道で25分はかかる。大峠分岐から左へ進めば細峠・竜在峠を越え冬野を経て多武峰へ続いている。

⑤ 大峠(萩井市針道・大宇陀町宮奥)

大峠分岐から右への道を少しくだり10分ほど登り返して東へ1.0キロほど進む北へ向かう。クマザサに道がおおわれる所もあるが、木の根とササに注意すれば勾配のゆるい道で、登り下りを繰り返すと大峠へ近づく。尾根の分岐では注意を要する。まっすぐに行くと支脈の尾根に入る。右へ廻り込むと大峠に到着する。大峠には一体の石仏と「女坂伝承地」の石碑があるだけで、北へ上がる狭い尾根道は熊ヶ岳から細ヶ峠を経て吉野山への登山道である。

神武天皇の大和進攻の伝承地や聖地は宇陀郡や萩井・龍原市に点在するが、戦前の紀元二六〇〇年を契機に設置された栗空の歴史的石造物が多い。

大峠から右手東方への道は宮奥へ通じ、左手へくたれば針道へ通じる。多武峰と宇陀の松山や吉野の繁家を結んだ大峠は、

近世には多武峰や伊勢への参拝に利用された。

⑥ 八幡神社・若宮神社(萩井市針道)

大峠から西へ林道を30分もくだると針道奥落葉帯へ着き、右手へ入ると杉の大木に囲まれた針道の氏神がある。春日造の本殿は八幡神社、向かって右の本殿が若宮神社で、切妻造の拝殿の前に蔵戸社と隨石と見える自然石の大黒神がある。

近世の針道は尾府巡見使の道路で宇陀郡の松山で宿泊、大峠を越えて針道で昼食して多武峰寺参詣を済ませ、細峠越えて吉野の上市へくだって寄泊している。

⑦ 不動滝(萩井市八井内)

八幡神社から引き返し不動川沿いに西へ20分もくだると不動滝がある。小さい滝であるが、行場の設備が整えられている。八井内は多武峰寺の三門前町、西口・飯盛家・八井内の町を称し、寺の東門のあたりに、八ヶ所の井戸があったゆえといわれる。現在も大字の各所に至町後期の供養塔や名号碑・石仏が見られる。不動滝バス停から30分付にバス便があるので20分で萩井町へ戻る。

【この花・この草】

オニノヤガラ (Gastrodia elata)

ラン科

「鬼の矢柄」又は「神の矢柄」は、真っ黒くなきを黒(神)が使えう矢羽根になぞらえたもので、花の時期、矢が地面にさざっているように見えることに由来している。多年生寄生植物で、株全体に葉緑素を持たない。宿主はナラタケ等の菌類で、コナラやクヌギなどの雑木林によく見られる。

又スビトナンシ(盗人の足)の別名は、ナラタケ菌糸と共生しているために毎年同じ場所に花茎を上げることがよく知られること、その根茎の形からそういわれている。

夏の開花期に根茎を掘り上げ、丁寧に水洗した後、蒸してから乾燥させたものが生薬の天麻で、フェニール類のパニリン・パニールアルコル等を含む。一般には頭痛・めまい・筋力の弛緩等に用いられるが、漢方では半夏白朮天麻湯・解語湯等が有名である。アイヌの人々は、地上部に赤線素を持つ、類似植物のアオテナマの根茎を煮たり焼いたりして食用にしたということがある。

御影から六甲最高峰へ

松永恵一

六甲山

六甲山。阪神・淡路の大震災の後は、物見遊山や登山など、不謹慎と遠慮していたが、「六甲おろし」に誘われ、久しぶりに訪れてみた。

六甲山は塩屋付近から立ち上がり、次第に高度を上げつつ北東にのび、六甲山頂(931.3m)を経て宝塚で武庫川に没する、約30kmの山並み。直線的かつ急傾斜を下る斜面が屏風のように連なる山塊は、神戸・芦屋・西宮・宝塚の町々を抱き込むように、君臨するかのようそびえている。

山頂に立つ。眼下に住宅地・ビルや工場群・港湾施設を見下ろす。東には大阪市街・生駒の山並み。南は大阪湾を隔て

て紀伊の山々や友が島、南西に淡路島。夜は百万ドルの夜景が展開する。六甲という名前の由来には幾つかの説がある。

大阪湾の西のはるか「向こう」に見える山「から」向こうの山「とか、武庫川河口付近「武庫泊」の航路目標「武庫の山」、神功皇后が三韓征伐の帰途、謀反を企てた香坂王と忍熊王を平定され、六人の首を刎ねぬとも山に埋め、それ以後六甲山と称されるようになったと言われている。

六個の甲を置いたような長く続く山地は、緑をばぐくみ、寒風をさえぎり、青山として暖気を囲い込んでくれる、おだやかでやさしい、慈世のような山であり、

また、荒れ狂い狂り狂う夜叉のような山でもある。

関西で最も親しまれている山域に、夏山トレイニングを兼ねて出かけてみた。「六甲おろし」を口ずさみながら。

六甲おろし 六甲山

に風葉と 蒼天翔ける 見 六甲山
口輪の 青春の潮気 川 風しく
輝く我が名 武庫川
ぞ阪神タイガース
オウ、オウ、
オウオウ、
阪神タイガース
フレ、フレ
フレフレ



白鶴美術館

城郭のような堂々とした建物が緑に映える。白鶴酒造七代目孫納治兵衛(健翁)が古希を記念して昭和九年に建てた本館には、10世紀~14世紀の中国の古美術を中心に収蔵している。殷・西周の青銅器、漢・唐・宋・明の陶磁器、奈良・平安時代の経巻など、世界的に有名なコレクションがある。

平成七年に、白鶴美術館開館60周年の記念事業として新館が建てられた。モダンなコンクリート造りの新館には中近東の絨毯を中心に展示されている。常設の絨毯展示館としてはわが国初めてで、絨毯を通してイラン・トルコ・コーカサスなどの地域の文化や伝統をみることもできる。

白鶴美術館は、春3月中旬~6月上旬と秋9月上旬~12月下旬に開館されている。開館中の月曜日は休館。気候の良い時期にゆっくり時間をかけて訪れたい。

- 所在地 神戸市東灘区住吉山手6の1の1
- 電話番号 078(8551)6001
- 開館時間 午前10時~午後4時半
- 入館料 大人800円、学生500円

ヘルマン屋敷

昭和五十年ごろまで、東灘区住吉川上流の白鶴美術館の対岸に、「お化け屋敷」と呼ばれた洋館の廃墟が残っていた。

大正三年(1914)、日本海軍とドイツのジーメンス社との贈収贈送事件が暴露された。ジーメンス社が日本海軍の軍需品受注のため日本の高官に贈贈したとの疑惑が浮上、国会で取り上げられ、野党世論の厳しい追求によって、ジーメンス・シケルト社のほかイギリスのピッカース社などからの日本海軍に対する贈贈工作も判明、山本権兵衛内閣は同年3月に総辞職。この事件の立役者が洋館の主ヘルマンであった。

杉山平一は故文詩にしたためた。六甲山脈の中腹にある洋館ヘルマン屋敷の主人が、東京から夜の神戸三の宮駅に降り立つと、山の上の屋敷の屋上からサーチライトが、ヒタリと彼をとらえ、やがて走り出す彼の自動車を追って玄関に着くまで準備していたという話を、少年の日、目を輝かしてきいたものだ。

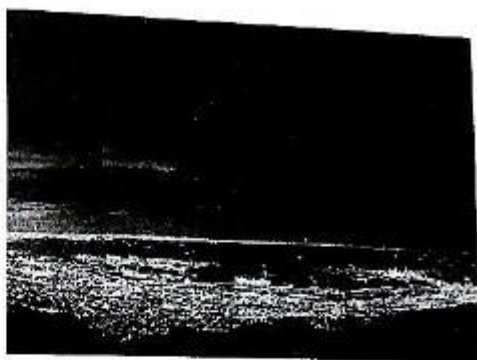
いま、目の前の、何もない舞台に、スポットライトが、まあるく落ちている。

御影石

六甲花園岩は、長石が肉紅色で黒雲母も少なく、サビを生じることも少ないので「桜みかげ」と呼ばれ装飾用に珍重されている。

石切場は住吉川の上流にあり、荒神山・重箱山・五助山と次第に上流へ移動している。「往昔は牛車などに負うことなかりしに、今は海濱次第に浸理して山に遠ざかり、石も山口の物は取り尽くされ、今は奥深く採りて二十町も上の住吉村より牛車を以て継て御影村へ出せり」と寛政十一年(1799)に出版された『山海名所図会』が記すように、山口近くの石を採石していたものと思われる。

「享保十九年御影浦船隻被取調」には、計九七隻のうち石船は三九隻と記録され、石船の多いのが目立つ。これらの石船により、御影浜から花園岩の素材・製品が積み出され、積み出し港の名より「御影石」が商品名となり、やがては花園岩の代名詞とまで声価が高まった。「摂津名所図会」は、「御影村の石工、山に入りて新り出し、京師・大坂及び畿内の石工・備前の炭石あるいは鳥居・燈籠・手洗鉢の類、みな此石を以て作る」と記している。



百万ドルの夜景

コース概観

六甲山は、神戸市の北に、東は宝塚から西は塩屋まで横たわる山地。古くから交易道が開かれてはいたが、神戸の開港に伴い米臼した外国人によって登山道が開かれ、近代登山あるいはロッククライミングの発祥の地と言われる。山頂部には自動車道が通じ、多くのレジャー施設が設けられて、都市型ハイキングの山として、多くのハイカーに親しまれている。

阪急神戸線の御影駅で下車。桜井木と松の木に囲まれた、街中のオアシス深田池を経て、立派な石垣が目を引き関鎖な尾敷街を行く。小さな石の道しるべに従い、お城のような建物の白鶴美術館を運り過ぎ、住吉川に沿って上流へ進む。西谷川に架かる落合橋を渡って右の車道に入る。左に大きなマンションが立ち並ぶ住吉川の川縁の道。右馬道と呼ばれた。左手に「水災記念」碑が立つ。昭和十三年(1938)7月3日、阪神大水害は616名の命を奪った。台石の東面に刻まれた「当時出水高」の横線は、この橋を流れる現在の谷底からは容易に信じることができない。文豪谷崎潤一郎はこの時の体験を「細雪」に記した。

普通の洪水と違うのは六甲の山裏から溢れ出した山津波なので、真つ白な波頭を立てて波濤が飛沫を上げながら後から後へと押し寄せて来つつあって、あたかも全体が沸々と煮えくり返る湯のように見える。

甲南斎場を過ぎ、絶壁の上の高層住宅を見上げながら進む。水車小屋跡の説明板。瀧の酒造業が盛大になるにつれ、次々と水車場が建設され、酒米を精米してい

た。水路は延々と水車場を連ね、澄みきった水は清らかな音を立てて流れていた。

左に曲がる所に道標がある。正面の草むらのなかに入る。急坂を登りきると林道に出る。「太陽と緑の道」の標識がある。しばらく林道を進む。右下に小峠々原堀場が見える。御影石を運出、運搬していた石切道と打越山への分岐を過ぎると五助堀場。堀場の高さ30m、六甲山系最大級の砂防ダムである。いつになれば満砂になるのかと言われたほど大きなものであったが、昭和四十二年災害の土砂をせき止め、一回の豪雨で溢杯になってしまった。このダムが無かったら悲惨な土砂災害が発生していた。

堀場の左手を登る。土砂で埋まり広い広場になった河原は飯盒炊さん等にもってこいの場所。釣りもできるが水は飲めない。イノシシが出てきたりする。五助山への小径は、すぐに細い尾根が完全に崩壊して歩けるような状態ではない。

右手奥の池からよく手入れされた石畳の道を行く。水場がある。五助堀場の下を右に入った水場は大腸菌の検出が報告されている。黒五谷への分岐を過ぎる。

本庄橋への沢コースと森林コースの分岐で沢へお入り。すぐに対岸へ渡り、右岸を進む。のどかな谷歩き。せせらぎが清涼感と呼ぶ。ひんやりした流れに手を浸してみる。プラナリアやサワガニなどが生息している。

本庄橋跡で休憩。かつて渡してあった石柱が置かれている。急傾斜の階段を登って堤堤を越え、すぐに流れを渡る。最後の難関「七曲り」の坂が始まる。この坂の前半はけっこうきつい。テンタラテンタラとつづら折の道に汗を流した。道が緩やかになり、コンクリートで固めてあるようになると、間もなく目の前に突然一軒茶屋が現れる。

一軒茶屋から道路を横断して(横断には気をつけること。巨通しが悪いうえに、とんでもないスピードで駆けつけてゆく車がある)、トイレの脇の車進入禁止の道路を



御影から六甲最高峰付近路図

登っていくと、六甲最高峰。明治十九年(1886)に一等三角点の標石が置かれた。標高931.13m、北緯34度46分29秒、東経135度15分59秒。山頂は先の大戦後、米軍によって管理され、パラボランテナが設置されて足を踏み入れることはできなかったが、平成四年に返還された。パラボランテナも撤去され、自由にその頂上を踏めるようになった。

1等三角点は山頂の更地の奥にある。頭すれすれまで土に埋まっております。等級などの文字を読みとることはできない。手前には、立派な石碑に1等三角点の説明が刻まれている。アンテナ塔の金網にへばりつくように、山頂標識のケルンが置かれている。この地で山頂の記念写真を撮った日のことが懐かしくなった。山頂を吹き抜ける風が、芦屋に在住し

藤木九三とともに近代登山術を普及させた富田確化の

六甲のみ山の奥の巖石

とかげ極めこむわれならなくにや、木下利玄が大正七年七月に六甲越えの際に詠んだ

うぐひすは鳴きすましをり

頂上の笹原照りつ曇りつするも

という歌や、昭和六年八月にこの地を旅した与謝野雲(歌歌)の

霧過ぎて山の松間にしづくしぬ

有馬に下る鉄の立札

などの歌を連ねてきた。

▲コースタイム▼

阪急御影駅(20分) 白鶴美術館(50分)

五助堀場(1時間20分) 本庄橋跡(50分)

一軒茶屋(10分) 六甲最高峰(1時間)

有馬温泉(阪急バス) 阪急宝塚駅

△地形図▽2万5千Ⅱ西宮・宝塚・有馬 昭文社Ⅱ「六甲・摩耶・有馬」

△費用▽

阪急梅田駅→御影駅 270円

△問い合わせ先▽

阪急電鉄山の係 06(63773) 5326

北河内の四名山

竜王山・旗振山
交野山・国見山

初級コース(★)
西尾 寿一

計画を練って行く重量級登山の合い間に息抜きの行ってみる軽い山行もまた楽しい。その日の朝に決め、勝手に地図をにぎり家を飛び出すのだから、日頃新人に言っている「山のセオリー遵守」は、どうなっているのか。秘かにだれにも見られないようにするしかない。しかし、こんなときほどだれかに見られてしまうものだ。〇〇日変なところで見かけました。とか、声をかけたの知らん顔だったとか、たぶん、それらは他人の空想だろう。

までさえるものがない。これから行く国見山もそうだが、秀吉と光秀が激突した「山崎合戦」は、ここからならさぞかしすこい光景だったろうと想像する。懸崖にはたぐさんの落書きや彫りものがあり、まるであはたのようだ。その昔、神様としてあがめまつられた石も、現代人にとっては展望台の踏み台に過ぎないのである。



竜王山・旗振山 交野山・国見山付近略図

私市駅の手前、河内森駅で下車し、寺の在所まで行く。そこに「かいがけ道」の表示があり、山に向かって登って行く。と住吉神社に出る。

少し高台になっていて北河内の街がよく見える。神社から道標に従って「かいがけ道」を行くと、各所に地藏や石仏があり、中世からの道らしいすばらしい雰囲気をもっている。戦国時代に馬で駆け通った武將がいたという由来も書かれている。

30分登って左に広場があり、たくさん石仏が並んでいて、その少し上に竜王山の入り口がある。

鳥居があるのですぐ分かるが、急登30分で、竜王山が山頂に巨岩をのせ、さらにその上に竜王祠をのせ両面している。静かだけれども来ない山頂にはヤブツバキがたくさん残っている。

竜王山から北へ続く尾根は「けげらの背」と言うが、やや細く岩が露出し、アルペンのような。踏み跡はこの尾根に付いているので、ある時下降してみたら創価堂園に出てしまい、網が張りめぐらしてあってなかなか外へ出られなかった記憶がある。くだるなら北側の露園に出

鳥がたくさんいて設計区通りの公園風景であった。

白旗池から国見山へは二通りのコースがある。その一つは池の北側の遊歩道を行き、分岐を二度とも左へ行くと突如登り、国見山の東の峰に着き、道標通り左をとればすぐ国見山である。

第二は、白旗池から右岸の小屋根に踏み跡が付いているので、尾根通しで先の峰に合流する。後者は、やや逆脚向きと云えるだろう。

国見山には「津田城」があったと言われ、別名津田山とも呼ばれているが、北

たほうがよい。

竜王山から旗振山に出るには、祠の北側から東へハヤブをこくと傍すと郡南街道を結ぶ



交野山の麓から枚方市方面

街道を北に歩くと旗振山入口の道標があり、10分で鉄塔のある頂に出る。入り口に2等三角点との表示があるが、3等である。北東方面のみ展望がきく。

近くに交野山の巨山が見えている。山頂から北と西へ踏み跡があるが、送電巡視路なので、元の入り口に戻る。

郡南街道を渡り公園を横切り、強い登りを登りきるとゴルフ場である。カーブする道路を行くと左側に赤い鳥居があるので、これをくぐりひと登りで交野山だ。交野山があるのに、なぜか地元では交野山と呼んでいる。

山頂に磐座の巨岩が幾重にも重なっている。眺望絶大で、北河内から京都方面

方の展望がすばらしい。山は低いのに、これだけの眺望が得られるのもめずらしい。さすが昔の人が城を築くはずだと感心する。山頂には市の基準点(国土地理院ではない)と286.5の石標が埋められている。

さて下降路である。これも二通りあって、どちらも「津田城」へ出られる。安全なのは先の峰に戻り、北へくぐるとすぐ道路に出るので、そのまま西へくぐって行けばよい。

第二は山頂からそのまま北へ尾根の踏み跡を使って西へくぐると畑があり、石仏もあって、このルートも古いものだと分かる。ただしこのコースは地図読みがむづかしい。(平成11年2月歩く)

△コースタイム▽

- 京阪河内森駅(20分) 森(15分) 住吉神社(30分) 竜王山入口(20分) 竜王山(10分) 旗振山(10分) 山頂(35分) 交野山(15分) 白旗池(25分) 国見山(1時間) JRR津田駅

△地形図▽2万5千1枚方

2等三角点のある山

大ブチ山と一族山

初級コース(★) 山形 歳之

大ブチ山(617・6針・点名・平谷) 大阪から吉野に向かい、熊野に抜ける国道169号線を南下する。川上村を抜け大迫ダムを過ぎると、道は伯母峰トンネルの坂道となる。ダム建設のお蔭で、吉野川沿いの道もずいぶん走りやすくなった。トンネルの入り口で大台ヶ原道と分かれ、上北山村にくだる。さらに川沿いに走り、池原ダムを過ぎた所で熊野市道と分かれ七色ダムに向かう。ここからは極端に狭い道で、川沿いに曲がりくねっている。車が少ないからよいようなものの対向もままならない。北山村は近年袋下りで有名になった所で、「おくとろ」という立派な温泉や、



大ブチ山村近略図

ロッジ・レストラン・キャンプ場が建設されていた。袋下りのシーズンは5月から9月までで、シーズンオフの今は人形もまばらだ。大ブチ山はこの袋のりばの対岸の村にある。小森から紀和町に抜ける林道から登る。袋のりば手前の上着荷は吊り橋で、1人車までは通行可能とあるが、普通車は無理だろう。3きばかり戻り大井の新大沼橋を渡る。小森集落からは山に向かう舗装された林道を登って行く。峠の手前に車を駐め、右手北に向かう登山道に入る。植木のなかをゆっくりと登って行く。大ブチ山は左手だが、道は山頂に向かわず、通り過ぎた北の鞍部に登りついた。ここで縦線上の縦走路に合流する。ここから南に折り返し縦走路を登ると、山頂に到着する。植林に囲まれて全く展

望がなく、山頂というより林のなかにあった所で登山した実感はない。実は林道がこんな山頂近くまでのびているとは知らなかったのだ。南の川畑集落から登るつもりでいた。そこからなら少しは登山らしくなるはずだったが、地元に来てから林道のことを知り、いつもの癖で最短のコースを選んだので30分程で登り着いてしまった。

同じ道に戻って「おくとろ温泉」(料金500円)で汗を流す。シーズンオフの今は入浴客の姿も無く、露天風呂を独占できた。(平成10年11月2日歩く)

△コースタイム▽

小森林道峠口(30分)大ブチ山

△地形図▽20万1田辺 5万1潯八丁

2万5千1潯八丁

昭文社「玉置山・潯八丁」

△地形図▽20万1田辺 5万1潯八丁

2万5千1潯八丁

昭文社「玉置山・潯八丁」

一族山(800・5針・点名・大峰)

北山村「おくとろ温泉」から国道169号線を新宮市に向かって走る。北山村沿いのこのあたりも深い渓谷で、曲がりくねった狭い道が続く。よくもこのような道を作ったものである。そのため各所で補修工事や拡張工事が行われていた。潯狭口を過ぎ、竹筒で左折し国道311号線に入る。紀和町からは、日本の流100選の「布引の滝」の道標に導かれ大河内林道に入る。

一族山は名の知られた山で、四方から登山道がある。今回は一番登りやすいと言われている大河内コースから登る。登山口には立派な案内図板が立ち、5、6合駱車である。



布引の滝

△コースタイム▽ 大河内林道口(45分)布引滝道合流(40分)小栗須道合流(20分)一族山

(平成10年11月3日歩く)

山の紹介

写真集

御池岳・彩 僕の心模様



近藤 郁夫 (私家版) A5版・48頁 納価 600円

御池岳を愛してやまない近藤郁夫氏が、春夏秋冬に變りなす世界を撮った写真集。御池岳の自然に魅せられてしまおう。(購入申し込み先) 〒456-10032 名古屋市中村区三本松町22の3の102 近藤郁夫まで

雑木林のプロムナード

明ヶ田尾山

あけがたおやま

初級コース(★)

柴田 昭彦

北摂には静かなたずまいが魅力の山が多い。豊能町と箕面市にまたがる明ヶ田尾山もその一つである。最近その山名の読み方には混乱が見られるので、考察するとともに、勝尾寺から高山に出て、明ヶ田尾山、鉢伏山、天上ヶ岳から箕面駅へ出るコースを紹介する。

明ヶ田尾山の山名が最初に見られるのは、明治2年測図・大正元年製版の二万分一地形図「妙見山」からと思われる。ふりがなは以降の地形図を含めて記載が見られない。3等三角点が設置されたのは、点の記によると明治35年のことである。所在は「豊能郡止々木町大字上止々木尾美字明ヶ田尾山」で、点名は俗称に従

い「一本松」である。当時は山頂に松が一本あったのであろう。

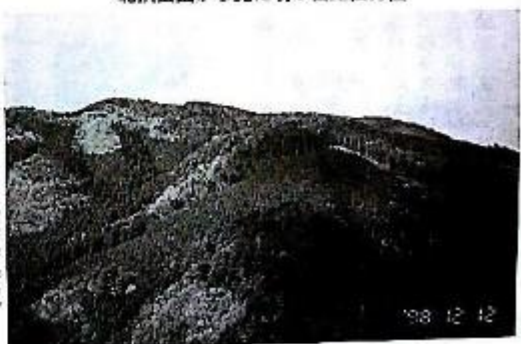
木藤精一郎「ハイカーの徑」(第2輯・北摂山群の歩道、昭和22年)、「コンサイス日本山名辞典」(「日本山名総覧」などには、「あけがたおやま」とあり、箕面市と豊能町の地名調査も同じ読み方になっている(建設省国土地理院近畿地方調査部による)。

ところが、「大阪府の山」(山名・用語事典)「京阪神ワンデイハイク」(98年版)、「登山・ハイキング バス時刻表 近畿版・99冬巻号」を見ると、「みょうがたおやま」という読み方になっていて異なる。

『大阪府の山』の執筆者である中庄谷直氏におたずねしたところ、「箕面市の公園管理事務所の方が『みょうがたお』と教えてくれたから変更した」とのことであった。箕面ビクターセンターのリーフレット「明治の森箕面国定公園」(平成4年入手)を見ると、確かに「Myogata」とあり、「みょうがたお」と呼んでいることが分かる。

『大阪50山』(大阪府山岳連盟、06・6371・3330)は、貴重なガイドであ

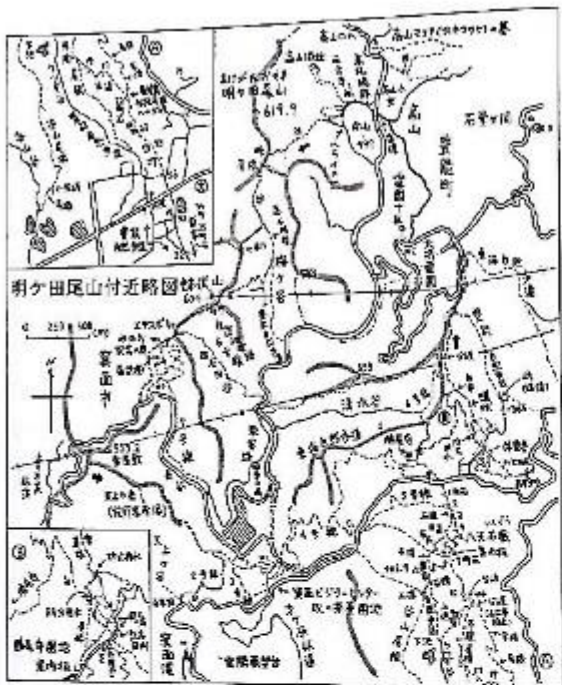
北摂雲霞から見た明ヶ田尾山方面



るが、奇妙なことに、「明ヶ田尾山」とルビをつけている。その典拠は、西川隆夫「豊能ふるさと感懐」(平成7年、私家版)の中の、「明ヶ田尾山(あけだおさん)」という記述なのであるが、括弧内は、別名表記の「明田尾山」にふさわしい愛称であり、「明田尾山」と表記するべきだろう。「日本山名総覧」では「あけがたおやま(あけだおやま)」となっ

いる。地元の碑の尊重ということから考えれば、「みょうがたお」は特殊な読みであり、「あけがたお」が一般的と解釈できよう。

山名の語源は「地名用語語源辞典」を参考にして考察すれば、「開けた鞍部(峠)」「あけ・たお」ではないだろうか。



地名・地理・民俗研究者等による実験的著作(金谷正隆を欠く説が散見する)と思える『日本山岳ルーツ大辞典』の中の解釈「乾きのよい良田・尾根が良く曳いて美しい山(あけた・お・やま)は無理があるように思われる。織正正憲「山を駆ける風になれ」(山と渓谷社、平成11年)は明ヶ田尾山な

どの山名のルーツを前記辞典に依拠しているが、たとえば、小和田山のルーツは、「山の尾根が湾曲している様子(ワグ)」からと引用するが、内田嘉弘「京都丹波の山(上)」には「一面の集落・小戸と

和川の二つの地名を重ねて付けられた山名のようにだ」とあって食い違い、その利用には注意を要する。ルーツ辞典は、個々の山の事例を一つ一つ検討したものではなく、「一定の地形用語等の解釈を全国の山すべてに適用していることが多いのである。

北大阪急行千里中央駅前から北摂雲霞行きのバスに乗り、勝尾寺で降りる。バス停から東へ少し戻り、ブロック壁に沿って左折して園地に入る。右手にトイレと休憩舎を見て、すぐ左手の記念植樹と詩いた栗林から山道に入る。道なりに進むと防火用水がある分岐に出合う。左を走れば歩きやすい谷道で、登っていけば東海自然歩道に出られるが、ここは右を走る。10歩進んですぐ分岐で左の山道を上る。ここからは尾根伝いの古道である。溝伏に覆れた所があるが、やがて、先程の谷からの道と合流する。右に進む。山頂をからむように進むと、北摂雲霞の近くで東海自然歩道に出合う。右をとり、道標に従えばよい道路に出る。道なりに進むと、くだりになると、雲霞十区のバス停に到着。そばにトイレがある。

3月4日 紀念名草山
渡り鳥の運び来たもの寒色の
湖ぶくらに新世紀まきし
3月8日 美作那岐山
樹木のイマージュに石の面影を
消える運命の切なき劫ぐ
3月13日 播州七蓮山
七蓮山の岩尾根とこどもも続き
友の背追えば雲流れ飛ぶ
3月17日 湖北陸ヶ岳
北風の雪は解け去り余長湖澄む
天女降り来と伝説のように
3月22日 紀州真珠山
春呼ぶ節神を時を要に召し
新生の木々がやきめ草燭
3月27日 讃岐原島
立命館の教育賞を受けし息子と
わがらい訪えば瀬戸はもう春
4月5日 鈴鹿原原岳
そよかぜ春便り吹きて相似形に
黄金のサチクサ今年も咲いた
4月8日 鈴鹿雲仙山
四月、春の妖精眼りから醒めて
雪尾根を花畑に変えよ。
(木村太郎)

4日 「やまと地形図の会」 Ⅱ
六田皿天倉案内。参加34名
5日 三橋ヶ峰 (吉野山) へ。
6日 「くさか」 長谷寺奥の
院蔵倉のさくら案内。参加16名
11日 三西山 (大和宮山) へ。
12日 「大和漫歩会」 仏蔵寺・
西光寺・大野寺のさくら案内。
41名
15日 五社峠を越える。
17日 光仁天皇陵等を訪ねる。
20日 「水芝」 一茶「天川・みた
らい」 深谷案内。こおし城く。50名
22日 「林一巻」 水間峠・田原
の里案内。参加43名
24日 「関西地図の会」 菅原寺へ。
27日 ウーマンライフ社の「や
さしい登山教室」 竜王山案内。
40名
30日 「大和の峠を歩く」 一開講
式。(上田修弘)

ガイドブック、紀行文にもお目
にかかっている。
5月3日、皆村から伊藤新道・
白滝山・長池のコースをたどる。
伊藤新道(サビ沢)にはワサビ・
ニリンソウ・ミヤマカタバミの
花が目につくが、ヤマシヤクヤ
はまだ蕾。まじい白滝山の登
りに耐え、本日未だ知ルートの
スタート地点長池の先頭に著く
このから蓬萊山までは、きょう
の核心部である。地形的には起
伏の少ない台地状尾根で最後に
蓬萊山に迫り上がっている。
13時30分、蓬萊山に向けて未
知のルートへ踏み込む。あたり
はミスナラの林に、ブナが点在
する疎林である。標高1000
弱のこのあたり春は遅い、木々
の芽吹きはまだである。よって
木々の間から遠望もよくきく。
林床にも夏草はまだ無く、ただ
背丈ほどのネマゲタケが一面
をおおっているが、か細いので
助かる。
歩き始めてすぐ打見山に向か
う遠望状塔に出会う、その下を
沿うように遊歩路が走る。路を
横切り両方にルートをとる。以
後は踏み跡ゼロの台地状のやぶ

植の嶺 (千田俊彦) 百八十七峰「霧ヶ原」 ホテル 白馬プリンス ホテル 〒300-0000 長野県北佐田郡白馬村いわたけ 0266-172-4452	八ヶ岳北麓の中心地 50年秋祭開催完成記念 大の香のう新館完成記念 オーレン小屋 1泊2食付き 6000円 5月未31日木曜まで 〒399-10213 小中須天 野野市山平 2720 小中須天 0266-172-1379	北八ヶ岳の客山頂 女谷安キ J東京野鳥北八ヶ岳登山口ま で送迎します。 長野県原 ブチホテル カナール 〒399-10301 長野市北山聖徳寺通野鳥55 13の1 0266-67-2222	日本唯一の女人禁制の山「大 羊山」(白雲)の登山口 「新山」(白雲)の登山口 温泉・名水の里 旅館 紀の風屋 甚八 1泊2食付き 7000円から 〒398-0431 長野県上野原町大川町33 0266-41-0309	九州の最南端 日本百名山 宮之浦岳(一番近い宿) 屋久島グリーンホテル 〒399-1431 鹿児島県鹿嶋郡屋久町安房 0997-461-3021	御在所登山に 安知山(御所)の登山口 止好寺(御所)の集う宿 朝明茶屋 朝明茶屋 〒300-0001 三島郡朝明町千草 0266-172-1379
--------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

尾根を地形図・コンパスを頼り
に慎重に進む。地形は思ってい
たよりも複雑ではなく、おもし
ろいように現在地が確認できる。
しかし、やぶ山の密な山行は時
間を食うものであった。行程の3
分の1を地味なあたりから、やっ
と蓬萊山から打見山がはっきり
と確認できるようになる。これ
が、この後油断となり左尾根へ
迷い込み、約30分もの時間ロス
となった。
後は慎重さを取り戻し、蓬萊
山麓下のササやぶを泳ぎながら
16時35分蓬萊山頂に飛び出し
た。
約2・7kmの行程に3時間も
要してしまつた。休憩間もなく
最終ゴンドラに乗るため打見山
へ戻る。16時30分、かろうじて
最終段に間に合う。
成れのなかでも可笑しい一日
だった。両膝は打ち身とスリ傷
だらけ、同行のAさんの山ズボ
ンには血がにじんでいた。
(今津浩司)

たぐさんの登山者も春の妖精と
の出会いを求めて歩かれたこと
だろう。
イチリンソウのまじりつな茎
と共に、似合のない程の大きさ
の白い花が咲く。不思議だまな
あ、葉心からほんに小さな点
が生れたいかと思うと茎のび
て花になるのだから。
そのいろんな過渡の花の子を、
小の子どもとつくばりながら
見ていた。カタクリの花は前日
の雨に打たれて、花房を閉じて
うなだれている。
花の個体数は驚くほど少なく
なっている。以前、この斜面には
レングレのように一面のカタクリ
が咲いていたのだ……。いった
たか二人のネバチヤマが鎖と袋
を持って、カタクリを掘り寄っ
ているのに出くわした。人連れ
の姿を見て隠そうとするが間に
合わない、一喝するとコンコン
と逃げようとして消えた。
真の谷から丸山の分岐には、
だれが取ったのか道標がある。
て道標がこぼれ落ちていた。不
思議な気分になる。
上からの男一人女一人に会う。
何となくまげそうら顔をする。

手に持つ袋には、あの花がいっ
ぱい。二袋も持っている。つい
声が大きくなって「なにを盗っ
たのや、アホなことするな」足
早に過ぎ去っていった。
ほんの何年か前にはなかった
ことが目の前で起こっているの
だ。初めてここを訪れる人は、
この景色が始まりでしょうが、
長年この山で遊ぶ者たちにとっ
ては、かけがえのない宝なので
す。
歌をうたうのも花を飲むのも
無し。ゴソゴソと潜り込むのも
無し。でも可憐な花を持ち去る
のはダメだ。そんなことを
話しながら登山の経験のしつ
かりとした踏み跡をたどりまし
た。
(今津浩司)

6年前から、秋から春を中心
に四回八十八箇所を歩いていま
す。昨年5月に三回目の巡拝を精
願し、今年2月19日に四回目の
巡拝を完了しました。
3日間徳島県の平地にある
札所十八か所を巡り、この秋は、
徳島の山間部五か所と高知県東
部の札所を巡りたいと思ってい
ます。
朝早く静かな礼拝に参り、ハ
ンカを畳みかいたり、参り御で
目の出を拝したいと思っています。
道筋の大半は、舗装道路で
すが、一部には味わい深い山道
も残されており、海沿いの山道
道からは美しい太平洋や瀬戸内
海が望めます。
3年前の秋、高知県で出会っ
た娘さん(瀬戸内三葉一きれいな
海、きてよかった!)
この三葉を思い出しながら、
弘法大師の歩いた道を今年も歩
きます。(杉本 茜)

静岡・東山(一般向け)

期日 8月1日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口
7時45分(京都駅発車・
29分)

コース 名古屋駅(電車)・御油駅
(タクシー)・寺山口・柳
瀬神社・東野寺・文殊岳
一若山一茶室一牛久保坂下
(バス)・御油駅(電車)
名古屋駅(解散時刻迄)

費用 約4,000円(食費別途)
お弁当各自持参、タクシー
代

地図 5万1泔水
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
遊覧バス乗降社から徒歩にて
駿河湾の海と富士を見ながら歩き、
杉林のなかをくたつていきます。
雨天中止

②

近海百名山を登る(全乗6回)
鈴鹿・鎌ヶ崎と入道ヶ崎
(やや難関向き)

期日 8月1日(日) 日帰り
集合 近畿四日市駅前の山登屋
行きホーム9時30分(京
行)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
崎」
係 伊豆川遊覧
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

コース 名古屋駅(電車)・木曽
川(タクシー)・大原上チ
ビネ峠・木曽駒ヶ岳(登山口)
一御油駅(バス)・名古屋駅
(解散時刻迄)

費用 約4,000円(食費別途)
お弁当各自持参、タクシー
代

地図 5万1泔水
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

部・大阪からは特選)

コース 四日市駅(池田)・湯の山
温泉駅(タクシー)・武平
峠一鎌ヶ崎一御油駅一水
沢峠一茶室時一イワクラ
茶寮一公園一宮原駅
キャンプ(駐車場)(タクシー)
近畿四日市駅(解散時刻
迄)

費用 約6,000円(大阪から
特選、タクシー代)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
崎」
係 伊豆川遊覧
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

アサギマダラの群舞は多ければ、
御油の池と自然探歩山行
(やや難関向き)

期日 8月8日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅(時20分)
二枚橋西海部駅(時9時0
分)

コース 各集合駅(車)・コソルミ
谷登山口・カククリ峠
真の谷一奥の池一東池一
ボタン岩一奥の平西峰一
丸山一幻池一カククリ峠
一コソルミ谷登山口(解
散)

費用 交通費各自
申込券 〒500-0050
岐阜県海津郡南濃町松山
62の19 山田明男まで
*定員15名(大阪・京都
方面からの電車の方を優
先、関ヶ原駅より車を手
配します)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
崎」
係 伊豆川遊覧
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

コース 名古屋駅(電車)・木曽
川(タクシー)・大原上チ
ビネ峠・木曽駒ヶ岳(登山口)
一御油駅(バス)・名古屋駅
(解散時刻迄)

谷登山口・カククリ峠

真の谷一奥の池一東池一
ボタン岩一奥の平西峰一
丸山一幻池一カククリ峠
一コソルミ谷登山口(解
散)

費用 交通費各自
申込券 〒500-0050
岐阜県海津郡南濃町松山
62の19 山田明男まで
*定員15名(大阪・京都
方面からの電車の方を優
先、関ヶ原駅より車を手
配します)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
崎」
係 伊豆川遊覧
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

鈴鹿を歩く75
須谷川(御油向き)

期日 8月8日(日) 日帰り
集合 水原寺町ひろは商店(4
時半発着)・9時0分
421号線一須谷川一赤
の海門一穂子ヶ口登山口

コース 須谷川(御油向き)
足立陣跡(私設)御油町
新ハイキング関西グルー
プまで
*定員30名(食費は各自
持ち)
*7月27日まで
新ハイキング東京合同・表参道
コースから上高地へ、日本百名山
の穂子ヶ崎を縦走します。雨天は行
きません。

費用 約3,000円(食費別)
バス・宿泊・車代(タクシー
代)別途要

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
崎」
係 伊豆川遊覧
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

コース 名古屋駅(電車)・木曽
川(タクシー)・大原上チ
ビネ峠・木曽駒ヶ岳(登山口)
一御油駅(バス)・名古屋駅
(解散時刻迄)

「杉林」(難関)

後 深谷・新ノースか地下タビ
・ウツリ杉林
費用 交通費各自(沢歩き
のため保護対策外・教習対
象費50円)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
崎」
係 伊豆川遊覧
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

費用 約3,000円(食費別)
バス・宿泊・車代(タクシー
代)別途要

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
崎」
係 伊豆川遊覧
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

鈴鹿・御油川(御油向き)
期日 8月11日(日) 日帰り
集合 朝明温泉入口千草発着所
上野車庫(時30分)

コース 朝明ハム・鎌ヶ谷一白滝谷
一上野車庫一鎌ヶ谷一白滝谷
一上野車庫(解散)

費用 約3,000円(食費別)
バス・宿泊・車代(タクシー
代)別途要

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
崎」
係 伊豆川遊覧
申込券 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

コース 名古屋駅(電車)・木曽
川(タクシー)・大原上チ
ビネ峠・木曽駒ヶ岳(登山口)
一御油駅(バス)・名古屋駅
(解散時刻迄)

を凌ぐ人で渡り、早々に下山した。

(参加者) 木村正弘、木村千代子、松本 寿、阿部昭雄、若井茂子、小堀孝男、平 龍一、赤子、木村好和、新町平夫、(計11名)

○尾越英五 (計11名)
鈴鹿・雲仙山(自然探険山行誌) 3月22日 晴れ
*雨天のため中止しました。

海池岳の池と自然探険山行(7)

(稲野孝は映いたか?)
3月28日 晴れのをあられ、雨
JR関ヶ原駅集合8・20/30/西
野原駅集合9・00(車)コケルミ
谷登山口9・30/長命水10・05/
カタクリ峠10・35/幻池口・25/
阪道の谷口・45(昼食)12・05/
お花池13・00/日本園の池13・
30/鈴鹿北14・00/キハタの池14・
30/コケルミ谷登山口15・30(車)
西野原駅16・00/関ヶ原駅16・20
(分り解)

奥羽清一 佐賀一 宮科孝次郎
森田 守 青木一雄 塚本健子
大島光雄 吉川武司 広田不俊子
大谷登子 渡辺達郎 野里マツミ
大橋元造 黒田明子 森次喜登子
川上善代子 日高昭雄

○尾越英五 (計11名)

4月4日 晴れ
近鉄掛合駅集合9・05/30(バス)
池9・45/登山口9・50/二つ目
の池9・55(海池)11・15/30
/小島山口・55(昼食)13・00/
高14・25/35(バス)相模原14・
50(解散)
最高峰の春日初めのなか、ついで折
の急登を汗をかきながら登った。
鉄道のあふきは感銘がたつ。山頂
かいては真っ白な能登白山や白山城
峰が眺望できた。木目の山行は登
起り全員が絶賛する。すばらしい
山だった。(記録・池田)

(参加者) 稲野孝子
若野泰明 柳谷利口 野々山 寛
前田政雄 森 隆代 飯田由美子
徳田暢子 岡本孝子
○古橋孝次 ○小出良春(計12名)

陽の光が透られて薄闇といはかず、
半開きの株の垣を越えた。

(参加者) 近江孝子 宮科孝次郎
武村千鶴 緒方由子 尾越英五
寺田久広 竹田豊英 黒田明子
佐々木美代子 チョウサムスン
原 文字 小尾末吉 坂井田良男
下村孝子 藤堂田男 森 美孝子
夏山登子 赤川 美子 山田妙子
○高橋芳彦 ○山田明男(計12名)

海池の御池岳(鈴鹿を歩く66)

3月28日 晴れ一時吹雪
鞍掛橋集合8・30(車)鞍掛ト
ネル広場8・40/鞍掛峠9・10/
鈴鹿北10・10/お花池10・35/ホ
タンブチ11・45(昼食)12・40/
深淵往復12・55/奉助の池13・00/
一丸山14・00/お花池14・20/鈴
北14・30/鞍掛トネル広場15・
30(解散)
コースを変えて鞍掛トネルか
ら登り、広大なテーブルランドの
ササやぶと落葉を自由にした。
南群やボタンブチからの大感嘆と、
崖下の暗い洞窟を見て下山にかか
ると畑が降ってきた。帰路にミ
コトの畑のフクシノウツと菅原のミ
ツタの花を鑑賞した。

京都西山・大塚山と小塚山
4月6日 晴れ
*雨天のため中止しました。

北山横敷ヶ岳から大塚山

4月8日 晴れ
北大園駅集合7・30/41(バス)
岩屋橋8・25/40/西谷 尾越英
彦を経て横敷ヶ岳10・40/11・00/
城戸園尾越英彦11・20(昼食)
12・10/飯塚山13・15/30/天童
山14・10/茶臼峠14・45/15・00
/西ヶ坂から京北第一小学校16・
30/45(バス)西谷集合18・00
(解散)
快晴、やや低湿の涼とした好日
に恵まれた。好望の尾越英彦にはタ
ムシバ・ミヤマカタバミ・イフ
チなどが咲き誇り、また歩数計
では26000歩をカウントして
いた。

(参加者) 宮坂隆彦 瀬戸内柳子
今西光男 保田 正 岡本和子
川邊敏子 安原正樹 中村 隆
石原孝子 大石光雄 前田政雄
高田信男 山田天 渡辺達郎
北尾信治 川上久隆 柳 幸子
龍尾隆治 尾越英彦 坂井田男
戸相 茂 藤田光彦 柳谷良江

(参加者) 山田登二 樺田豊利
大石光雄 後藤隆幸 徳田暢子
海田隆彦 池田繁英 高村孫三郎
河辺政男 水口鉄治 神野孝九
谷 守 高杉 博 石田良由英
信田信広 和田四郎 馬場繁孝子
奥田隆夫 ○笠野 明(計19名)

鈴鹿・藤原岳(自然探険山行誌)
3月28日 晴れのち雨
JR関ヶ原駅集合8・20(バス)
御守寺前9・15/1合目9・30/
二合目10・30/八合目11・00/登
難小原12・00(昼食)13・00/白
濁峠14・00/坂本合登山口16・15
/聖堂寺前16・45(バス)関ヶ原
駅17・30(解散)
午前中は晴れていたが、午後か
ら冷えて込み、あられや雪模様。フ
クシノウツ・セツブンノウツなどキ
ンポウゲ科の花たち、フササカ
ラ・キブシなどの樹木の花たちが
出会い、早春の藤原岳を楽しんだ。

高木 晋 竹田豊英
○水見昌彦 ○前中 毅
(計12名)
甲賀・油日岳から那須ヶ原山
4月10日 晴れ
*雨天のため中止しました。

海池岳の池と自然探険山行(8)

(シマリスに会えるか?)
4月11日 晴れ
JR関ヶ原駅集合8・25/西野原
駅集合9・00(車)コケルミ谷登
山口9・25/長命水10・00/カタ
クリ峠10・35/冷山岳11・25/白
濁峠11・30/其の谷11・55(昼食)
12・50/アト上増13・10/空池13・
40/其の谷・丸山分岐14・06/幻
池14・10/カタクリ峠14・45/コ
ケルミ登山口15・40(解散)
先回りされたか? ミスミンの
パイカオウレン・セリバオウレン・
コバイモの花に見られたが、イフ
チウツはまだ蕾だった。しかし、
思いがけずフクシノウツの群生に
出会い感銘した。

(参加者) 近江孝子 市橋千代子
金澤孝子 小尾末吉 武村千鶴
狩野泰隆 鈴木信雄 中谷ひろみ

稲野孝也 藤本紀子 森次喜登子
柳谷信之 安田由子 山本孝子
若井 寛 若林暢子 ○加藤英彦
○尾越英五 (計30名)

野坂・相模山
4月4日 晴れ
JR近江今津駅集合9・10(バス)
登山口9・35/45/スキー場11・
10(昼食)12・00/姫女湖13・20/
30/平池13・45/50/ピラデス
/今津駅集合14・10/20/宿舎セ
ンター14・30(入浴・休憩)15・
20/バス15・30(バス)近江今
津駅16・00/07発(電車内解散)
イワウチワなどの花を見たくて
行ったが、奥女湖周辺は感賞があ
りまだ映いていなかった。スキー
場やピラデス合陣からの風景を
楽しんで下山した。ピラデス今
津の宿舎センターでは、300円
で入浴できる。しかも、清潔な服
品などおすすすめし。

森川信之 木村正弘 木村千代子
原 文字 中尾和子 中村幸子
池田隆一 福岡 希 徳田 謙
下村敏子 水谷俊之 山田妙子
○水原芳彦 ○山田明男(計12名)

近鉄百名山を歩く(1)

4月11日 曇りのち晴れ
近鉄掛合駅集合9・00/10(バス)
下太郎生9・50/高士足跡11・00
/一尾ヶ岳伊勢守寺11・45(昼
食)12・30/オオクワ13・00/大
塚山雄五14・00/雄五14・20/30
/三多気分岐休養所15・00/萬
福院15・20/55/三多気の展望15・
50/16・15/雄五16・30(バス)
名鬼駅17・25(解散)
大塚山の二山を歩き通り歩いた。
大塚山雄五山頂からは遠く富士山
がみえて見えた。雄五の道を三
多気の展望へくだった。概ね五分
咲きだった。

(参加者) 高橋田男 川本 隆
前田政雄 渡辺達郎 若林暢子
西野孝夫 黒田明子 森 晴代
黒崎昭彦 伴 人江良史
小南時英 岡本隆雄 野野代代子
大本 隆 大木久子 長次俊英
高橋妙子 所沢暢子 尾越英彦

和川宮藏 山田屋三 井林秀翁子
 松本彰子 三井弘一 北山田鶴子
 松本屋藏 藤本 飯多野孝子
 安斎正徳 保田 正 東 秀翁子
 吉原孝次 村上春茂 前川和哲子
 櫻井孝子 田中善雄 占徳信藏
 鈴木修三 原 幸子 三宅 明
 岡田春茂 権乃由子 西村善行
 三浦幸幸 徳田暢子 飯田夢子
 白田孝子 武部 剛 武部美奈子
 岡田貞規 内木良子 生取はるみ
 山本京子 山田敬治 山宮多恵子
 吉原清次 藤田明子 斯本秀雄
 中村英雄 青木一雄 河原孝子
 青山孝子 眞田公子 野村道子
 徳本義之 田坂明 宮本高幸
 宮本孝男 寺本幸男 松下美留子
 若木徳子 血祭清男 中尾美留子
 三好清雄 吉川誠宏 吉田ノノ子
 家人敬次 次下信行 嘉一郎
 上田孝多 竹内英美 森岡美子
 上田正子 中坊裕子 川上善其子
 岡本美子子 ○測定係夫 (計名名)
 ◎岡田屋良 (計名名)

12・10(朝食) 13・00 赤山南池
 草山山13・40 経路池・経路北
 池14・30 一ツツ坂池道大松15・00
 汗ふき時16・00 寺原原野17・
 00(解散)
 上山からの広くてゆつたりと
 した松林の屋根で、鹿の角を拾っ
 た人もあった。花酔を過ぎると西
 園屋根にイヌワシが悠然と蹲っ
 ていた。南園東池は狭谷とフラクシ
 ヲウに閉まれ、その周囲で鳥食。
 赤山南池・草山山、そして深いサ
 ナを歩き分けて経路池・経路北池
 を巡り、下山にかかると西園屋根
 にイヌワシ二羽が悠然と現れ、す
 く消えた。
 (参加者) 大石裕美 田中鶴子
 小島照光 中田鶴子 宮前登美子
 後藤康幸 菅原勝利 中川博史
 藤野武敏 平 幸子 永戸秋彦
 神野孝允 河辺政夫 天岡 茂
 谷 守 加藤明村 池田登雄
 池田英美 奥村四郎 信田信一
 小田妙子 奥村一平 石田由栄
 城月誠幸 原野彌栄子
 ◎岩野 明 (計名名)

4月11日(日) 晴れ
 河内風穴寺山門前広場集合8・30
 一オオシヤレノ湖10・00 直轄10・
 30 近江風穴寺山門・40 南園東池

野坂・赤坂山から三園山
 (平日水曜ハイタコ)
 4月14日(日) 晴れ
 JR京籠駅7・37発(電車) ママ
 ノ原9・42(9・07)ハ(マ)キ
 ノ高瀬9・21 赤坂山登山口9・
 35 湖子ヶ滝登山口10・15 赤坂

湖東・津山
 4月18日(日) ◎小田良春
 *雨天のため中止しました。

鈴鹿・幻の霊仙寺境内へ
 (花の子ルンレン)
 4月18日(日) 雨
 いぼこり城蔵広場集合8・00(車)
 徒懸堀8・30 坊塔ガワ9・30
 武奈10・30 坊塔ガワ11・00(車)
 倉12・00 八雲山13・00 地蔵
 純手前13・30 林道14・00 徒懸
 堀15・00(車) 伊吹登山道15・30
 (入食) 16・30(解散)
 雨天でも5名の顔ぶれがそろう。
 小降りなので境界のまき果實の産
 村を歩かざる散策コースとした。
 春の意を拾いながら春蘭の山道
 び。早目の下山でお風呂がザッ
 トになった。
 (参加者) 小田妙子 永戸誠治
 今岡良代 伊藤寛久男
 ◎岡井晃市 (計名名)

野原
 井ノ口山巨大谷杉は、両手を広
 げた16人で囲めた。お日曜でのイ
 ワッチワ城蔵は正午で、思わずか
 たらその多次の隣間(城蔵)があっ
 た。一部コースを変更して実施し
 た。
 (参加者) 宮原敏彦 野間越夫
 今西光男 山岡勝美 木村千代子
 藤田敏子 安藤陽子 野村妙子
 藤田光彦 中村英雄 榎本いづ子
 和田直樹 岡原雅雄 前川和哲子
 坂本和子 西田崇治 藤井恭子
 川上久榮 田中 明 山本千鶴子
 竹内孝雄 平田義男 郡司寛太郎
 藤岡良江 松下山 山盛実奈子
 酒上 明 入江武史 上坂登枝
 平 幸子 若木豊子 北原信枝
 市野純文 ◎前中 殿(計名名)

35(バス) 大田駅7・50(解散)
 雨に振りまかれ、ガスに巻か
 れた足踏だったが、自然林の芽吹
 きの彩りの美しさを次々に現れる
 花の群落の見事に感動が湧きあ
 った。開花していた草木は結露種
 (参加者) 小山妙子 市橋千代子
 鎌谷節枝 鈴木信忠 木村カツミ
 藤原邦 田中鶴子 高野千鶴
 坂 良男 中野謙吾 中川信子
 野崎重郎 本間 隆 藤岡美留子
 藤田和子 藤本貞留子
 ◎森川信之 ◎岩野 明(計名名)

二度出遭った。さすがに登山道さ
 えハッキリしない手つかずの山。
 この先も手つかずの山であって
 欲しいと思った。
 (参加者) 宮本高幸 岡田英美子
 三浦幸幸 若原孝子 上田正子
 金澤孝子 新井孝子 藤岡陽子
 藤井隆雄 船橋利明 船橋みよ子
 狩野東彦 安斎正徳 北川田鶴子
 森 明代 佐々木孝子
 若松 寛 右衛門英美 宮村次郎
 斎藤 隆 斎藤孝子 眞田久子
 藤本紀子 栗岡孝子 村田はる江
 藤井 敏 藤井孝子 石田良由美
 美村孝治 美村三郎 武部美奈子
 原文子 余部理子 新井千枝子
 野口 修 相原敏子
 ◎岡田 昇 ◎美野北子子(計名名)

森野・大見晴・万野
 (鈴鹿を歩く68)
 4月25日(日) 曇り霧雨
 大野・福集合8・30 鹿尾9・45
 大野10・20 坂崎10・45 ミノ
 女神11・35(朝食) 12・20 大見
 晴13・20 万野14・20 大野・畑
 15・20(解散)
 霧雨のなかを登ると泡いガスに
 変わり、幻想的な杉林が続いた。
 ミノガ峠から大見晴・万野の間は

道がなく、見通しがきかないので迷ってしまい心配をおかけした。今回も大きな鹿の角を踏まれた方もあり、思い山に落ちる山行になっ

〔参加者〕山田三郎 武井千鶴 大石啓美 河合正彦 田中順子 藤田勝利 三井誠一 中川伸史 清水由子 星野正弘 元村隆男 木村孝彦 小尾末吉 伊藤文夫 河辺政男 藤原 高村修二郎 永戸鉄治 西内正弘 天岡 茂 和田四郎 池田達彦 池田繁実 鈴木朋 小林 実 後藤基幸

④岩野 明 (計約名) 鈴鹿・豊山(自然観察山行) 4月29日(日) 曇りのち雨れ J.R米原駅集合8・10(タクシー) 浄水場8・25 上丹生登山口8・45 北原橋11・55 常備山12・15 長谷12・50 北原橋15・10 白濁谷合口14・25 J.R柏原駅16・15(解散)

新ハイキングクラブ関西 大会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西」の山(隔月刊・年5回発行)の定期遠征を中心にしたハイキングの集いです。この雑誌は地形図やコースガイドなど、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、冒険心が健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広げましょう。 「新ハイキングクラブ」は昭和25年若尾以来、東京を中心に約半回も好評のうちに活動してきました。関西は平成3年発足から年一回に入りませんが、すべにたくさの会員が活動しています。 会口は当会の山行案内に優先して参加できます。この山行案内を通じて正しい山歩きを、楽しい山行にしたいと願っています。 リーダー(各)はすべて無償の責任で、各自で初歩を教える代金を払い、宿泊料もすべてワリカンです。 会員には「選手」新ハイキング関西の山」をお送りします。 四季の自然に魅かれながら歩き、

〔参加者〕近江秀子 田中 明 田中明子 富樫雅子 深谷昌子 深谷 寛 富樫浩夫 (計約名) ④富見守 晴 (計約名)

湖北・七尾山 4月29日(日) 晴れ J.R米原駅集合8・30(バス) 南池登山口9・10 25 後藤盛彦広場10・40 七尾山11・15(朝食・北麓散歩) 13・00(産湯休憩) 13・10 南麓尾根コース上笠立13・50 野神神社14・30 15・00(バス) 長谷駅15・20(解散) イワカガミの咲く産湯を登る

大、伊吹山を展望する広い尾根の七尾山に着いた。下山は南麓尾根をこつた。新緑が清々しいコースだった。 〔参加者〕小由潤子 佐藤新一 依藤妙子 木岡 隆 石原明次 海野妙子 田和郁代 岸本南美 杉本 高 佐田文男 山崎多恵子 奥村浩一 神太郎三 野田マツコ 山元 武 山田博雄 国藤義雄 北村 正 大谷孝子 山本すま子 木寺直子 出比廣美 広田不佐子 寺田久広 芝野明 滝原さよふ 入江武彦 中村啓香 波多野恵子 寺本孝男 松井 武 辻 雄一郎

新入会員紹介

若々しい心と健康をいっつも持続するのは素晴らしいことです。これから始めてみたい人も、すでにヘチランの人もみなさんご入会いただけます。 入会費 500円(ハッピード) 年会費 3000円(送料共) 入会のお申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の募集用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを記すのに記入ください。 なお、定期購読をご希望される方も必要になっていただきます。毎号送本にも士に届きますので便利です。 切手3000円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊をお送りします。 ○山行リーダー募集 リーダーは2ヶ月に1回開催の山行案内を計画・実施していただきます。 無償の責任ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方で、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マネージャーリーダー 必読」を送ります。

血屋勇男 血屋妙子 若木雄一 白根妙子 吉田誠彦 吉田ソノ子 辻 行子 藤 翠子 岩本いすゞ 村田隆代 田中豊雄 田中真知子 山原信子 木村太郎 中上紀代子 藤田 守 藤井益子 砂原美津子 松見 昭 池水 保 池原健治 小山良寿 久世美紗子

④山笠祭活 ⑤村田智徳(計約名) 九津中野の山 尾崎山・大藤山・五葉堂 4月30日(日)夜、5月4日(祝) 4泊5日(計約名) (30日) 時雨、大阪府津もめ西フナリーのりば集合13・45 13・30山麓(解散) (1日) 折れ、高尾山8・10 20(バス) 尾鈴山登山口8・50 10・00 尾鈴山11・40 倉倉12・25 1長尾尾13・20 1しくもげ子本林13・30 林道作業小屋14・30 13(バス) 上茂子 沢宿 1深流庄17・45(池) (2日) 晴、民約5・40(バス) 大前山登山口7・00 大前山登り 30 丸木橋8・30 池の夕平尾登山口9・00 赤上1 丸く坂10・30 1大前山11・25 石家11・30(昼食12・00) やく坂分岐、

新しいお仲間のみなさんです。 会員番号709から9番から400番まで

- 〔千葉〕 大嶋剛良 〔三河〕 藤原節代 〔滋賀〕 下野 隆 小澤明美 多田好美 多田節子 森田 守 〔京都〕 京塚洋子 神山英隆子 増田正明 青柳雅夫 青柳雅江 〔大阪〕 二宮 元 相馬節子 森重光雄 片山敬代子 大谷隆代 千原貴仁 伊藤隆彦 野村智子 〔奈良〕 井上幸子 藤 智子 塚山俊夫 八尾邦彦 田中久し子 東、トミ子 〔兵庫〕 平岡義男 坂本幸一 坂本美子 平野敏夫 島田節二郎 東山信夫 田中ゆ子 鶴田まゆ子 (計約名)

訂正とお詫言

46号(初巻)「クラブ」(8ページ)花の大谷谷三國のサブタイトル「大谷谷(谷田)にて」は、「大谷谷(谷田)にて」が正しい。(敬啓) ○本誌ボランティア募集 「新ハイキング」は創立8年目に入り、運営上の業務が多岐にわたっています。編集・発送・資料収集等、ボランティアでできる方を募集します。本部・村田までご連絡ください。 本誌のバックナンバー 大阪府梅田のハービスフラザ3Fの「トールビルギャラリー」旅の本舗「ハービス公庫店」に全号を寄贈しています。 毎年お求めになりたい方へ 前もって書店に予約してほしいと「購読予約」をされます。この書店でもお買い求めいただけます。購読月の20日ごろ(毎月)の発売です。